

平成23年度

中英研會報

第70号

東京都中学校英語教育研究会

平成23年度 行 動 目 標

東京都中学校英語教育研究会は、21世紀における中学校英語教育の
なお一層の充実・発展を目指して活動することにその意義を有するもの
である。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに努める。

2. 財政基盤の充実を図る。
 - (1) 従来の事業内容を見直し、経費の節減を図る。
 - (2) 新たな事業の展開を積極的に行い、収入源の確保を図る。
 - (3) 会費制の導入について、その検討を行う。

3. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。

4. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を遂行する。
 - (2) 英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を遂行する。特に小学校段階での外国語活動との関連に留意した研究を充実する。
 - (3) 新学習指導要領移行期間に入り、その趣旨を踏まえ、円滑に全面实施ができるよう研究を推進する。

5. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
 - (1) 「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関へ主体的に発信できる組織作りを目指す。
 - (2) 文部科学省、東京都教育委員会、東京都教職員研修センターとの関わりをより充実させる。
 - (3) その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。

6. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HPの活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。

目 次

●新学習指導要領全面実施を目前に！	井田 宗宏	1
●中学校外国語科における指導と評価の工夫	平木 裕	2
●東京都教育委員会より	阿部 大介	4
●外国語(英語)に関する研修について	深尾絵美子	5
●実践研究		
(1) 東京都英語学芸大会 劇の部優勝	神戸 千恵	7
(2) 東京都英語学芸大会 スピーチの部優勝	木下理佐子	9
(3) 事業部授業力アップ研修会公開授業	前川 卓哉	10
(4) 英検ケンブリッジ大学英語教員研修	岡部 芳枝	12
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	14
・事業部報告	横山 達也	15
・調査部報告	重松 靖	17
・研究部報告	北原 延晃	18
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	18
・出版部報告	小柳 守生	19
●研究大会報告		
・第51回 十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(札幌大会)	井田 宗弘	20
・第61回 全英連総会 全国英語教育研究大会(奈良大会)	惣田 修一	21
・第35回 関東甲信地区中学校英語教育研究会(山梨大会)	松岡 敬明	22
●各地区の活動状況		23
●中英研事業報告		49
●中英研会則		51
●役員一覧		53
●あとがき		60

新学習指導要領全面実施を目前に！

会長 井田 宗宏
(練馬区立豊玉中学校長)

都中英研には、これまで多くの先人たちが苦勞を重ね培ってきた財産があります。それらを礎に着実に受け継ぎ、さらに発展するための具体策を考えていかなければならない時期に差し掛かっていました。厳しい変化の中で、これからは、組織としての力量や結束力を試されることが多くなりそうです。一人一人が大きな目標達成に向け、手を携え合い歩んでいく必要があります。

都中英研では、これまでも常に時代の要請を的確に踏まえ、将来の英語教育に関わる課題について研究を重ね発信してまいりました。改めて歴史の重みを実感することがあります。今日における英語教育を取り巻く環境は急速に進展しております。いよいよ次年度から新学習指導要領が全面実施されます。都内の各学校では創意工夫を生かした指導計画が練られ着実に実践されています。この1年間に開催された各研究部会でも、その経過を具体的に把握することができました。

中学校英語は、すべての教科の中で最も時数が多くなりますが、そのために今、何をしなければならないのか問いかけられる場面もありました。週4時間は、これまで以上に英語科教員の一人一人に重くのし掛かってきます。さらに専門職としての力量が試されることとなります。4技能を総合的に育成する指導のあり方や文法指導と言語活動を一体的に行う指導の工夫、さらにはコミュニケーション活動についても新たな素地の育成に基づき、さらに伸長することの重要性などについて研究が進められました。

現在、東京都には、多くの英語科の教員が授業改善に向け、日々指導に当たっています。小学校外国語活動に従事する教員も増えてきました。学校を取り巻く環境が日ごとに厳しくなり、平日に研修、出張をすること自体難しくなっている実態に直面しています。

今こそ変革期にある中学校英語教育を確かな方向へと導くことが求められています。都中英研に関わる英語科教員は、「まず自分の学校を、子どもたちを大切にし、なおかつ人一倍、英語教育に厚い情熱を持ち続ける」という基本姿勢を踏まえることが大切です。これを軌道に乗せるためには、これまで以上に英語科教員の一人一人の力量が試されることとなります。

また年間を通して、各種の事業には、毎回、多くの英語科教員が参加しています。今年度も、着実に一歩ずつ前進できる組織へと成長を続けてきました。しかし組織が大きく、端々まで浸透させるためには、まだまだきめ細かな配慮と労力が必要です。授業力・英語力を合わせ持つ若手・中堅の英語科教員の育成も大きくクローズアップされてきました。

会員の皆様におかれましては、このような中ではありますが、今後とも一層連携を深め、東京都の中学校英語教育の充実に向けて、共に歩んでいきたいと思っております。これまでの諸活動を大きな自信として捉え、さらに日々前進できる組織に近づけたいと考えています。この1年間、会員の皆様のご協力に心から感謝申し上げますとともに、一層の発展を祈念しています。

中学校外国語科における指導と評価の工夫

～新学習指導要領の全面实施を迎えて～

(国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 平木 裕)

3年間の移行期間もまもなく終わり、いよいよ新学習指導要領全面实施の時がきた。指導内容にほとんど変更がない一方で、授業時数は大幅に増加する。この現実を前に、授業の改善充実をどのように図ればよいか本気で悩み、仲間と議論してきただろうか。3年間「あぐら」をかいてきた自分はいないだろうか。年度があらたまれば泣いても笑っても新課程に突入するこの時期に、心からのエールを再度お送りしたい。

授業時数の増加をどう活用する？

昨年の本会報で「小学校で外国語活動を体験した生徒は一定のコミュニケーション能力の素地を身に付けて中学校へ入学してくることが期待される。中学校は外国語教育の本格的スタートの時期であり、高等学校へつなぐ中核としての役割を担うこととなる。」と、中学校が果たすべき役割の大きさを強調した。週当たり1コマ相当、3年間で105時間増加する授業時数をどのように生かすべきかという視点から、あらためて指導の改善の方向性を示すこととする。ポイントは次の3点である。

- ① 外国語活動での学びをどう生かすか？
- ② 現行課程で足りないところはどこか？
- ③ 高等学校での授業にどう接続させるか？

<①について>

簡単に言えば、小中連携を通して受け取ったバトンを中学校での指導にどう反映させるか、ということになるが、外国語活動と中学校外国語科には、その目標や内容において共通性と決定的な相違点があることに注目するとよい。共通性に着目するなら、「小学校でやったことが中学校でも役に立つんだ」と生徒が外国語活動の有用性を実感できるような工夫が考えられる。そのためには、指導法の継続のためにも、第1学年の入門期における指導に当たり、小学校で体験した活動を取り入れたり、実際に使用した教材を活用したりして、「小学校でやったことがある！」といったところから生徒の学習意欲を高めることが期待できよう。一方、相違点に着目すると、「小学校ではできなかったことが中学校ではできるようになるんだ」と中学校への期待感を覚えるような工夫が考えられる。小学校での活動や教材を生かしつつも、単元目標の違いを明確に示した上で、達成感や成功体験を重視しながら、小学校とは異なるゴールへと導くことにより、「大変だけどできるようになった！」と声が上がるといったレベルで学習意欲を更に高めていきたい。

<②について>

授業時数の関係から、単元の中でやむを得ず計画からはずしている活動はないだろうか。本当はこんな活動をここで入れて、生徒にじっくり考えさせたり練習させたりして自信を持たせたい…そんな活動が年間でいくらかもあるはずである。要は、今次改訂で全教科等に求められている「言語活動の充実」である。スモール・ステップで行うべきところで飛ばしてしまっているステップを見直し、新課程では単元の「層」を厚くする発想が必要である。

<③について>

受け取ったバトンは次へ渡さなければならない。高等学校の新学習指導要領では「授業は英語で行うことを基本とする」ことが明確に規定された。平成25年度から学年進行で実施されることになるが、すでに全国あちこちの高校で授業改善は始まっている。全県あげて取り組もうとしているところさえある。中学から高校へどのようにバトンを渡すべきか、ぜひ近隣の高校の授業を見て、また中学の授業を見てもらって、生徒目線でスムーズな接続が図れるよう、相互に情報交換を行いながら、一緒に考えてもらいたい。キーワードは「英語による言語活動中心の授業」である。生徒が主役であることは、言うまでもない。

学習評価をどうするか？

上記①～③はすべて、生徒にどのような力を付けさせたいのか、という思いが根底にある。力が付いたかどうかを判断するのが評価であるが、力が付くようにしっかり指導していることが大前提である。各単元において、何をゴールにすえるのか。あれもこれもと欲張ることなく、一点突破の目標設定を心掛けたい。そして、それに対応する評価規準を明確にし、適切なタイミングと方法で評価しなければならない。特に能力や知識・理解の評価は、十分身に付いた段階で評価してほしい。十分身に付くよう、じっくり指導してほしい。しっかり生徒を支えてほしい。

おわりに

昨年同様、文部科学省作成の「実践事例映像資料」DVDでのメッセージを、今一度引用して終わりたい。「(前略)中学校こそが変わらなければ、この変革は真に大きなうねりとはなり得ないことをここで強調しておきたい。生徒たちが英語を使って生き生きと活動する授業が全国に広がることを心より期待している。」

東京都教育委員会より

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 阿部 大介

はじめに、歴史と伝統のある東京都中学校英語教育研究会が、これまで東京都の中学校における英語教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられましたことに対し、深く敬意を表します。

さて、本年4月より中学校において新しい学習指導要領に基づく教育活動が全面実施となります。今回の学習指導要領の改訂では、外国語科において文法事項等の指導内容は概ね従来のものであるにもかかわらず、標準授業時数が各学年週3時間から週4時間に増加します。こうした背景には、言語活動を充実させること及び指導事項の更なる定着を図ることがあります。

また、新しい学習指導要領においては、小学校で新設された外国語活動により育成されるコミュニケーションの素地の上に、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4つの技能を総合的に育成し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培うことが求められています。このように、中学校外国語科は、これからの我が国の英語教育の流れの中で大きな役割を期待されています。

こうした状況の中、本研究会が研修会で実施している講義やワークショップ、プロジェクトチーム部による研究、コミュニケーションテスト等は、まさにこの新しい学習指導要領で求められているコミュニケーション能力の基礎の育成につながるものであり、これまでに本研究会が積み上げてこられた研究の成果は、本研究会の会員のみならず、東京都の外国語科の先生方の教材研究や授業実践への大きな支援となっております。

東京都教育委員会では、平成23年度も、各地区や各学校で実施される研修会への指導主事の派遣や、言語活動開発委員会をはじめとした各種委員会、東京都教育研究員などの様々な事業を実施してまいりました。本研究会からも多くの先生方に御協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。東京都教育委員会は、今後とも本研究会及び関係研究団体との連携をより一層深め、東京都における英語教育の充実に努めてまいります。

終わりに、本研究会が、学習指導要領の改訂による英語教育の大きな転換期を迎えるこの時期に、東京都の英語教育の一層の充実に向けた取組を進めていただくことをお願いいたしますとともに、本研究会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍をお祈りいたします。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 指導主事 深尾 絵美子

平成23年度の外国語（英語）に関する専門性向上研修は下記の通り実施し、多くの先生方が受講した。

<専門性向上研修 英語ⅠA>（全3回）

「エンジョイ！小学校外国語活動」

- ねらい… 小学校外国語活動新設の趣旨や学習指導要領の目標及び内容を理解するとともに、具体的な教材や授業展開、基本的な指導方法、学習評価について学ぶ。
- 特色… 津田塾大学との連携により、授業で使用する教材を用いて、体験的に学ぶ。授業研究をとおして、授業展開と教材活用について学ぶ。
- 講師… 津田塾オープンスクール講師 他

<専門性向上研修 英語ⅠB>（全3回）

「英語科における授業づくりの基礎・基本」

- ねらい… 新学習指導要領の目標及び内容等を理解し、基本的な指導計画づくりや授業展開、学習評価の考え方について学ぶ。
- 特色… 学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、英語科における学習活動の在り方や学習評価、学習指導案の作成上の留意点について学ぶ。
- 講師… 東京学芸大学 金谷 憲 教授
国分寺市立第三中学校 重松 靖 校長
小石川中等教育学校 花崎 敦子 主任教諭

<専門性向上研修 英語ⅡA>（全2回）

「小学校における外国語活動の推進体制づくり」

- ねらい… 小学校外国語活動の推進上の課題について理解を深め、推進体制作りや学習指導、学習評価の考え方を学ぶ。
- 特色… 小学校外国語活動の指導の在り方や学習評価の考え方について学ぶ。校内で推進するための体制づくりの課題や改善策について学ぶ。
- 講師… 文部科学省初等中等教育局教育課程課
直山 木綿子 教科調査官 他

<専門性向上研修 英語ⅡB>（全3回）

「英語科における4技能を育成する授業づくり」

- ねらい… 英語科における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を、

総合的に育成する授業づくりについて学ぶ。

○特色… 津田塾大学との連携により、同大オープンスクール講師から4技能に関する具体的な指導の工夫と新しい学習評価について学ぶ。

○講師… 津田塾大学 オープンスクール講師
千代田区立九段中等教育学校 本多 敏幸 主任教諭

＜専門性向上研修 英語Ⅲ＞（全2回）

「英語科教育の今日的課題と指導の在り方」

○ねらい… 英語科教育の今日的な課題やこれからの指導と評価の在り方を理解し、中学校、高等学校の円滑な接続を図る指導の工夫について学ぶ。

○特色… 上智大学との連携により、「これからの英語教育」について、オールイングリッシュによる講義・演習を行う。

○講師… 上智大学 吉田 研作 教授

この他にも、以下の外国語（英語）に関する研修を実施した。

＜進学指導のための授業力向上研修E 大学への進学指導を重視した「英語」の指導の工夫＞（全4回）

○ねらい… 昨今の大学入試の現状と課題について学び、英語の授業力及び進学指導を重視した実践的な指導力を高める。

＜中高一貫理解研修＞

○ねらい… 中高一貫教育に関する基本的な内容の理解を深め、中高一貫教育校における教育課程編成の基礎知識を習得する。

＜東京教師道場＞（毎月1回・半日及び夏季休業中・2日間）

○ねらい… 授業研究を通して、2年間にわたって継続的に指導・助言を受け、教科等の専門性を一層高めるとともに、他の教員の指導的役割を担うことができる資質・能力を磨く。

＜東京教師道場錬成講座Ⅰ＞

○ねらい… 校内研修や授業検討の推進、若手教員育成の指導的役割に関する資質・能力を磨く。

生徒の努力と多くの方たちに支えられた『夕鶴』

足立区立第十二中学校教諭 神戸 千恵

本番の出来は今までで一番のものだった。生徒が役に入り込み、気持ちが入っていると実感できた。その姿を見ただけで、私は満足し、本番終了後は生徒たちに対し、とても誇らしい気持ちになっていた。本当に賞などいただけるとは思ってもいなかったし、生徒たちの頑張りに、ここまで練習を続けてきた疲れも吹き飛び、心底満足していた。

だから、結果を聞いた時は、たとえようもない驚きと感動で涙が溢れた。

さかのぼること7か月前、新入生を迎える前の部員は3年生2人に2年生3人の、たったの5人。また、昨年度は1年越しの都大会出場は果たしたものの、賞に入ることができず、悔しい思いで3年生は引退した。その気持ちを知っている後輩たちは、先輩たちの気持ちを受け継ぎ、頑張らなくてはと思う一方、新入生を入れなければ、劇の創作はおろか、部の存続さえも危ういという、危機的状況に追い込まれていた。

そんな我が英語部に5月、待望の1年生が入ってきた。待ちに待った1年生。しかも例年になく8人もである。2,3年生も1年生のみなぎるパワーを受けて少人数ながらも、いや、少人数だからこそできるであろうチームワークのよい部活を目指して一致団結し、13人でスタートをきった。

早い段階から昨年度の課題であった声量、演技力を磨く練習に重点を置いた。6月には新入生歓迎会で2,3年生が見せた“A little Red Riding Hood”を1年生だけで発表させた。ネットや本などから、発声練習、演技練習の材料を集めては試行錯誤しながら、練習を重ねた。

そして、そろそろ今年の台本を決めよう、という時期、私は、今までの練習を見ていて今年入った1年生の元気と無邪気さは劇にとってもいい効果をもたらしてくれるに違いないと確信していた。この1年生をうまく生かせる劇…。そこで思いついたのが『夕鶴』だった。元気な可愛らしい1年生が村のこども役として舞台の上で飛んだり跳ねたり、また与ひょうやつうに甘えたりする姿があまりにもびったりとはまりすぎるのだ。

頭の中ではイメージがどんどん膨らんでいったが、一方でまだ手元に台本はなかった。私の母校で以前「夕鶴」を上演したことがあると耳にしたことがあり、中学時代の恩師をたどって、その当時の顧問の先生から台本をお借りすることができた。

夏休み前にはオーディションをし、夏休みが明けてからは毎日の練習が始まった。

受験を控えた3年生は、塾や高校の説明会、また他の部員も地域の課外活動や習い事で部活を早退や欠席することが多く、全員そろって練習できる時はなかなかなかった。だから少人数の時は小道具作りやポイントに絞った練習、全員がそろった貴重な時は、全員で合わせる必要のあるところ、という具合に臨機応変に練習を重ねていった。

なかなか上手く練習がはかどらず苦しい時期もあったが、部長を中心とした息の合っ

たチームワークで劇は徐々に形になっていった。

そして、都大会を目前に控えた練習で、生徒の上達ぶりを実感する時があった。与ひょう役の生徒が、欠席だったため、急ぎよ私が代役を務め通し稽古をすることになった。初めは役をこなすのに必死だったが、生徒たちの演技が、あまりにも自然で、こども役は本当のこどもの様に、つう役は本当のつうのように見えてきて、気づけば私が生徒たちの創る『夕鶴』の世界に引き込まれていた。生徒たちはいつのまにか、自分たちの役を、セリフを本当に自分自身のものにしていったのだ。与ひょうの代役をやってみて感じたのは素直に『楽しい』ということだった。与ひょうを慕って集まってくるこどもたち、与ひょうに一途な愛をぶつけてくるつうに素直にうれしさや喜びが込み上げた。

今まで、立ち位置や感情などを事細かに丁寧に教えてきたが、これからはもっと生徒たちの力を信じ、もっと生徒たちの自由な発想で演じさせてみようと思った。「おかしかったら言ってあげるからアドリブを入れたりもっと自分たちで好きなように動いてごらん。」と助言した。すると、今まで以上に生徒たちの動きや表情が豊かになり、アイデアも生まれた。大会前日、障子に鶴の影を映す練習をする際、「鶴の必死さをもっと出せないかな。」と私がつぶやいたら、ある生徒が、私が何かの為に100均で買っておいいた白い羽を見つけて、「先生、この羽を鶴の背後で飛ばしたらどうですか。」と手のひらに乗せた羽にふう〜っ、と息を吹きかけた。すると、その羽が鶴の後ろで舞い、与ひょうのためにと必死に布をおる鶴の姿がより美しく、ドラマチックに映し出された。他の生徒たちからも歓声があがった。十分に練習をしていないため本番うまくいかない可能性が十二分にあったが、やってみたいという生徒たちの強い気持ちにGOサインを出した。公演後、写真をお願いしていた方から「障子に鶴が映ったシーンは目を奪われてシャッターを切れなかった。」との言葉をいただいた。生徒たちの自由な発想が劇的なシーンを生み出した。

全てを教えなくては、と思っていた自分を反省し、生徒の発想力の豊かさに再び感心した。

過ぎてしまえばあっという間だが、振り返ると、昨年度部員が5人になった時から考えると本当によくここまでこれたと、日々努力を惜しまず練習し、すばらしいチームワークを発揮した生徒たちを褒めてあげたい。そして、劇がここまでの成功を収めることができたのは様々な人の応援、援助があったことも忘れてはならない。台本を貸してくださった先生をはじめ、大道具を作って下さった技術の先生、それから視覚的に大きな効果をもたらしたと思われる数々の美しい着物を貸して下さった、生徒の親戚や保護者の方々、そして休日の練習にお弁当を作って下さったり、区大会や都大会に応援に来て下さった保護者の皆様、本校の先生方などたくさんのご協力があった。

決して1人の力だけではできないというところに私は劇作りの魅力を感じている。

1人ではできないからこそ、学びがたくさんあり、感動や喜びも大きくなり、他者への感謝の気持ちも芽生える。新入生を迎えるこの4月からまた新たに生徒と一から創り上げていく英語劇に、期待と生徒の成長を願い、今年もよい作品を作るべく尽力したい。

What Should We Do ?

西東京私立青嵐中学校 教諭 木下 理佐子

「スピーチコンテストは誰のためのもの？」

「自分はコンテストの直前に何を言ってあげればいいのか？」

スピーチコンテストの当日、会場となった千世橋中学校には私も若園さんも比較的早く到着し、のんびりとコンテストが始まるのを待っていました。私は教員なので、これからもスピーチコンテストに参加する生徒を指導する機会はあるでしょう。でも、若園さんにとっては、今回だけかもしれません。

スピーチコンテストは、一体何が魅力で、何を得られるのかを真剣に考えました。

このスピーチコンテストのために、夏休み前から準備をしてきました。「スピーチとは何か？」ということから、始めました。若園さんは、忙しい学校生活の中で時間を見つけ、原稿を作ったり、何度も練習をして覚え、スピーチを仕上げていきました。北多摩中学校英語学芸大会のビデオを撮る時には、疲れていても、何度も取り直し、納得のいくものにしました。その後、多少変更して、再度英文を覚えました。親しい友人に何度も聞いてもらいました。コンテスト前の学活の時、クラスの前で、スピーチを披露しました。普段とは違う自分を皆の前でみせるのはためらう部分もあったと思います。膨大な時間と努力が費やされています。

ですが、ステージの上でスピーチするのはたったの5分間です。

「リラックスして楽しんでね。」とコンテストの前に伝えました。

若園さんのスピーチはすごく上手でした。発音がきれいで、マイクまでの距離もちょうど良く、声ははっきりと聞こえました。訴える所は気持ちが伝わってきました。一切間違いなく、今まででbestでした。ジェスチャーが自然な感じで、会場をしっかりと見渡していました。途中で席を立つ人がいても、集中が切れることはありませんでした。素晴らしかったです。

スピーチの後に、「どうだった？」と聞くと、「クラスでやった時の方が、みんながじっと見るから緊張したけど、今は緊張しなかった。」と笑顔でした。

結果発表は1位でした。立派なトロフィーに青嵐中の先生方も生徒たちもびっくりしていました。

スピーチの魅力は、聴衆の前で自己表現するところにあります。そのため、膨大な時間と努力を費やし、家族や友人などの協力を得て、スピーチを完成させます。

本校の生徒をはじめ、英語好きな生徒がこのような有意義な時間を過ごす機会を与えて下さった関係者の皆様方に、深く感謝を申し上げます。

実践研究

東京都中学校英語教育研究会事業部 授業力アップ研修会 公開授業
「不定詞の副詞的用法の導入から表現活動へ」

府中市立府中第二中学校 教諭 前川 卓哉

1. 単元指導計画と本時のねらい

単元全体で扱う文法事項は不定詞であった。平成23年10月17日に行われた授業では、その副詞的用法を導入し、そこから表現活動につなげるということを大きな目標とした。単元全体の指導計画は以下の通りである。

第1時	<ul style="list-style-type: none">・不定詞の名詞的用法の導入。・時間のある時に何をするのが好きかについて述べられるようにする。
第2時	<ul style="list-style-type: none">・不定詞の名詞的用法の復習。・教科書 P.44 (Lesson 5-①) の導入と教科書本文の内容理解・音読。・自分の行ってみたい場所・国について述べられるようにする。
第3時 (本時)	<ul style="list-style-type: none">・教科書 P.44 (Lesson 5-①) の復習。・不定詞の副詞的用法の導入。・自分の行ってみたい場所について、不定詞の副詞的用法を用いて、その理由とともに述べる。
第4時	<ul style="list-style-type: none">・不定詞の副詞的用法の復習。・教科書 P.45 (Lesson 5-②) の導入と教科書本文の内容理解・音読。
第5時	<ul style="list-style-type: none">・教科書 P.45 (Lesson 5-②) の復習。・不定詞の形容詞的用法の導入。
第6時	<ul style="list-style-type: none">・不定詞の形容詞的用法の復習。・教科書 P.46 (Lesson 5-③) の導入と教科書本文の内容理解・音読。
第7時	<ul style="list-style-type: none">・教科書 P.46 (Lesson 5-③) の復習。・不定詞のまとめ
第8時	<ul style="list-style-type: none">・自分の将来の夢についての原稿作成。
第9時	<ul style="list-style-type: none">・自分の将来の夢について発表。

授業をするにあたり意識したことは、当然のことながら、単元全体につながりを持たせることである。そのためまず、前時に言えるようになった I want to visit ~. を、文字として書けるようにすることを宿題とした。そして本時は副詞的用法を用いて、それに理由をつけて言えるようにすることをねらいとした。単元全体につながりを持たせることで、生徒が授業や家庭で取り組んできたものをしっかり活かし、「やってよかった」「できることが増えた」という達成感を持たせる工夫をした。

また、教科書の内容がスピーチを扱っているので、単元の最終目標は自分の将来や夢についてスピーチをさせることを目標として設定した。それに向けて本時では、簡単なス

スピーチの形式を発表活動に取り入れ、自分の行きたい場所とその目的の前後に、オーディエンスに向けての挨拶、話題の提示、行ってみたい場所や目的に関連する一言、締めくくりの言葉などを含ませ、最低5文で述べさせるようにした。

2. 表現活動に向けての本時の取り組みと、次時の取り組み

初めに前時の復習として教科書の音読を行い、それに続き本文内容のretellingを行った。そして、それを踏まえた上で、前時のターゲットセンテンスである、want toを含む文を Dictation testとして行った。Dictation testを授業の冒頭ではなく、この位置に入れた目的は、①まず音声で前時の内容を思い起こさせる、②教科書本文を文字とともに音読することで視覚的にも確認させる、③実際に自分でそれを書く、という手順を追うためである。基本的に、本時のメインとなる副詞的用法は、前時に扱ったターゲットセンテンスにプラスされる形で導入するため、新出事項導入の前にしっかりと復習をして思い起こさせることが、その後の表現活動に向けても大切であると考えた。

新出文法事項を導入する際は、身近な教員をモデルとし、それぞれの人がどこに行きたいかを考えさせるとともに、それに付随してWhy?という質問を投げかけ更に考えさせ、副詞的用法へとつなげた。その後ドリル活動を経て、表現活動で何を表現するかをこちらが例示した後は、個人練習からペアへと段階を踏み、全体での発表の準備をさせた。授業では3名の生徒が全員の前で発表を行った。授業内での発表に関しては、新出事項を導入した授業時間内で、どこまでそれを自分のものとしてできるか、自分の言葉に気持ちを乗せて表現できるか、ということを中心にしている。しかし、発表者以外の生徒の取り組んだ練習を無駄にしないためにも、次時はペアをローテーションさせ、そこで相互に発表させていくという活動を行った。それにより全員が最低6人には自分の言葉で短いスピーチをし、また同時に友人のスピーチを聞くという活動に取り組むことができた。

3. 成果と課題

(1) 成果

授業の中は勿論、単元全体にもつながりを持たせることができたのは、一つの成果であろう。前に学習した文法事項を活かし、次の新出事項を引き出すという文法的側面だけに留まらず、自分の将来についてスピーチをするという目標に向かって、スモールステップを設けて授業を進めていくことができた。また、生徒が取り組んだ練習を無駄にしないためにも、全員がそれを使う場面をしっかりと授業内で保証するという考えを、単元の計画を立てることができた。

(2) 課題

slow learnersを考慮に入れて、個々の活動やそのスピードを考えることは大切だが、上位グループの生徒を飽きさせずに授業を展開していくか、ということも重要だろう。そういった意味では、表現活動で与えるテンプレートを、如何に自分のオリジナルに変えさせていくか、ということ意識して授業をすることが求められる。また同時に、それをslow learnersが参考にし、相互に更なるレベルアップを図れるような環境を作っていきたい。

「2011年度 英検ケンブリッジ大学英語教員研修」に参加して

文京区立文林中学校 岡部 芳枝

1. はじめに

数年前から文部科学省の後援のもと毎年夏に行われている本研修の参加者は、推薦や協会による選考で決定する。教員歴5年以上、英検準1級程度の英語力、海外研修経験がないことなどの応募資格がある。渡航費や宿泊費は主催の日本英語検定協会が負担してくださる有り難い研修である。以下、研修内容について報告する。

2. 研修内容について

英国ケンブリッジ大学のダウニングカレッジで生活しながら、英国有数の語学学校であるBell Educational Trust 所属の講師3名による約30コマのコースに参加した。Communicative Language Teachingの考え方に基づいた指導法を学ぶ中で講師が常に確認したのは、扱っている活動が生徒をActiveにしているか、Learner-centeredか、Communicativeかという3点であった。

英国の生活や文化を題材とした上級者向けの英文教材が扱われ、British Englishにふんだんに触れながらさまざまなコミュニケーション活動の紹介を受け、そのねらいについて考え、話し合う。学習者として活動に参加し体験してみたあとで、教師として学習活動の分析に取り組む。研修後半では、グループごとに模擬授業を行ない、学んだことを自分たちで試行錯誤しながら身につけていくというプログラムであった。

自分は研修参加前、活動をLearner-centeredにすることができれば生徒のコミュニケーションの量が増え、言語運用能力の向上に資するであろうと考えていた。しかし、2回の模擬授業を組み立て実施する中で、もっとも重要なのは、学習者が自ら考えながら活動に参加することだと実感した。学習者の能動的な参加を中心に据えた授業を展開していくと、学習者同士で考えを共有する場面が増え、自然と活動はLearner-centeredになる。また、相手に考えや気付いたことを伝える必要が生じるので、Communicativeなやりとりも実現できる。効率的に教え込むだけでなく学習者の学びを意識的に高めていくことこそが大切なのだと学んだ。

3名の講師はそれぞれ参加者の考えを引き出すことを常に大切にしていた。どんな意見を言っても必ず認めてくれるその姿勢に、学習者をActiveにし続けるための心構えも教えられた。また、扱った活動が日本の学校でも使えるものなのかどうか、ICTなどの教室環境はどうかを参加者に折りに触れて問いかけてくれた。より効果的で学習者に資する英語学習が世界に広まってほしいと願う講師の情熱に触れ、自分も縁ある全ての生徒たちのためにできる限り努力していく決意を新たにした。

3. おわりに

日本全国から集まった先生方と仲間になれることも本研修の大きな魅力である。秋田から鹿児島まで、中高合わせて計20名での参加者が研修後もメーリングリストなどを通じて交流を深めている。全国で実践を重ねられた先生方、そして東京から参加のすばらしい先輩方のお後について歩くことが多かった自分にとっては、週末の観光や食事の時間も含めてすべて学びの連続で、本当に幸せな2週間だった。このような機会をいただけたのはこれまでの職場で、また教師道場、中英研出版部をはじめさまざまな研修機会でお導いてくださったすべての皆様のおかげと深く感謝している。これから海外に出てみたいと思っておられる先生方の参考になれば幸いである。

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。年間事業は右記の通りである。①の定期総会は今年度も多くの参加者を集うねらいで、時間帯を遅らせた。また、昨年度まで行っていなかった講演会を桜美林大学教授の森住衛先生を講師にお招きし、実施した。②は、全英連中学部が主催し、本年度で5年目を迎えた。③の都中英研部長・幹事会は、来年度、新学習指導要領が完全実施されることを踏まえ、「これからの中学校英語教育のあり方」と言う演題のもと、専修大学教授の田邊祐司先生の講演会を実施した。30人以上が参加し、盛大に行われた。④の関ブロ山梨大会は11月11日(金)に山梨県富士吉田市のハイランドリゾートホテル&スパを全体会場に、また周辺中学校を分科会会場として開催された。一都八県で組織される関ブロは昨年の東京大会に引き続いての山梨大会であった。大会テーマは「国際社会の中で生きる力を育む英語教育を目指して」として、4つの分科会に分かれ研究の成果を発表した。小雨が降り続くあいにくの天候にもかかわらず、約400名近い参加者が集まり、盛大に行われた。

記念講演は、「4技能を総合的に活用する指導のあり方」という演題のもと、山梨大学 田中 武夫准教授先生から、ALL ENGLISHで講演をいただいた。

東京は第1分科会(4技能を総合的に活用

する指導の工夫「書くこと」を中心にしてという分科会テーマで、県外提案をした。発表者は高瀬ひとみ先生(千代田区立九段中等教育学校)と宮本猛司先生(世田谷区立深沢中学校)の共同提案で、また、指導助言者は多摩市教育委員会の中谷愛指導主事が担当した。普段の授業実践をもとに、夏休み前から共同で研究を積み、その成果を発表してくださった。次年度は茨城大会である。一人でも多くの東京都の先生が茨城大会で多くの研究成果を得、研鑽を積めるよう、事務局としても働きかけを工夫改善していきたい。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
 - ・資料作成
 - ・受付業務
- ② 7月 「第5回全英連中学部研究協議会」
 - ・受付業務
- ③ 各区市町村英語教育研究部長・幹事会
於：渋谷区立鉢山中学校
- ④ 関ブロ東京都事務局
 - ・11月関ブロ山梨大会参加事務
(後援申請、各県事務局との連絡、大会案内の発送、大会申し込みの受付等)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第27回授業力アップ研修会

日 時：平成23年10月17日(月)

会 場：府中市立府中第二中学校

講 師：安原 美代 先生

(都留文科大学講師)

今年度の授業力アップ研修会は、府中市立府中第二中学校を会場として行われた。授業者の前川教諭は、2年前の授業力アップ研修会で研究授業をする予定であった。しかし、インフルエンザで授業を予定していたクラスが学級閉鎖となり、研究授業ができなかった。今回は、さらに2年間の研鑽を積んだ上での研究授業となった。

今回のテーマは、「生徒理解をすすめ個々の生徒に達成感を与えられる授業の工夫」であった。前川教諭は、テンポよく多くの生徒に発問しながら授業を進めていった。また、生徒のretelling活動のために、Read and Look Upや、黒板に貼った語句を含んだ文を練習させて、段階的にretellingにつなげる指導を行った。

新出事項は「不定詞の副詞的用法」であった。学校の先生方の写真を使った導入の後、生徒に自分の行きたい場所と理由について発表する練習をさせた。ペアワークやボランティアによる発表で、「自分のことが英語で表現できた」という達成感を、多くの生徒が持つことができたと思う。

講師の安原先生からは、「達成感を与える授業」というテーマで指導助言をいただいた。group dynamicsの重要性や、motivationを高めるための方策について、理論と実践の双方に基づいた指導をしていただいた。

やる気生まれる時の一つとして学習における「主体性」を取り上げ、自分で選んだり決めたりすることがmotivationを高めることにつながるというお話は、日頃の授業の中で、生徒の主体的な活動がどれくらいあるかを考えさせられた。

今回の参加者は50名であった。研究授業、研究協議とも、すぐに実践に活かすことができるものであった。来年度は、区部で実施する予定である。多くの先生方が参加し、授業改善に役立てていただければ幸いである。

2. 第64回東京都中学校英語学芸大会

日 時：平成23年12月4日(日)

会 場：豊島区立千登世橋中学校

昨年までは東洋学園大学を会場としてお借りしていたが、今年度は豊島区立千登世橋中学校の体育館で開催した。初めての会場であったが、会場校の校長先生、副校長先生を始め、教職員の方々にご協力をいただいた。また、出場校の先生方や中英研各部の先生方も協力してくださったおかげで、スムーズに進行することができた。

大会記録

スピーキングの部 (参加12校)

1位 What Should We Do?

若園 実樹

(西東京市立青嵐中学校)

2位 MVP

伊藤 似枝

(世田谷区立八幡中学校)

特別賞 Who Cares about Accents?

中原 泉

(品川区立伊藤学園)

プレイの部(参加12校)

1位 Yuzuru

足立区立第十二中学校

2位 Peter Pan

江東区立深川第三中学校

3位 Run! Melos!

豊島区立明豊中学校

特別賞 The Flowers That We Saw

With You

都立両国高等学校附属中学校

審査員 Mr Edward Weinzierl (A L T)

Mr Jun Kodama

(日本英語検定協会)

重森 秀昭 先生

(文京学院大学中学高等学校)

今年度もレベルの高い発表ばかりで、僅差で入賞を逃した発表も多かった。審査員の先生方も、順位をつけるのに苦心なされたことと思う。

スピーチの内容も多岐にわたり、わかりやすいプレゼンテーションであった。英語劇においても、演技、発音など、先生方の指導の成果が発揮されていた。

来年度の英語学芸大会にも、多くの生徒に参加してほしい。また、生徒が英語を自分の考えや気持ちを表現する手段として使っている姿を、多くの方に見ていただきたいと思う。

調査部報告

Communication Test を終えて

(調査部長 重松 靖)
(国分寺市立第三中学校長)

◇平成23年度実施状況

平成23年度中英研コミュニケーションテストも多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことにまず感謝したい。今年度の実施状況は以下の通りである。

2年 2,593 (24校)

3年 1,748 (17校)

総計 4,341 人

各学年の領域別平均点は次のようになっており、「書くこと」に大きな課題があることが今年度も明らかになった。

◇Writing の力をつけるために

昨年度から調査部員が直接採点をしているが、Writing問題の無回答が相変わらず多く、時制、語順の誤りや、不自然な文章構成が目立つ。そこで、次のような点に留意して指導してはどうだろうか。

基本文を徹底して覚える

中学校段階で英語の語順をしっかりと身につけさせるには、音読、暗唱、copying という学習活動の基本を繰り返し、基本文をしっかりと身につけさせることが重要である。

基本文をスパイラルに「使う」今回のテストでも、「夏休みの出来事」をすべて過去進行形で書いた生徒が少なくない。多くの学校では、各単元で学習したことがその時だけのものになってはいないだろうか。学習した基本文を横糸に通し、教師が繰り返し

返し使って示す、生徒に繰り返し使わせ自己表現させ、誤りはきちんと正すなどして、正しい使い方をしっかり身に付けさせたい。

何を書くかを指導する

「いつ、どこで、誰が、何をしたのか」「どう思った・感じたのか」「これからどうしたいのか」等、事実・考え・予定を順序よく書くことを教えたい。

また、accuracy だけでなく、書こうとする意欲や内容・発想なども積極的に評価したい。

◇平成24年度に向けて

昨年6月文部科学省に設置された検討会が「英語力向上のための5つの提言と具体的な施策」を公表した。「基本的考え方」には「英語力の向上は教育界のみならずすべての分野に共通する喫緊かつ重要な課題」であり「新学指導要領の着実な推進は、我が国の国民の英語力向上のための基本」とある。英語科教員に課せられた責務は重い。そこで、次年度は是非Communication Test を採用し、生徒に英語を使う実感を味わわせてほしい。

研究部活動報告

辞書指導 (2)

～ジュニア版辞書調査と辞書指導の実際～

(研究部長 北原 延晃)

プロジェクト・チーム部 活動報告

(プロジェクト・チーム部長
斉藤 節子)

研究の概要

- ① 現在市販されている10種類のジュニア版英和辞書を調査・研究した。来年度からの新学習指導要領で辞書指導の充実がうたわれている。先生方が辞書を選ぶ際の参考になるようにさまざまな観点から調査した。ぜひご活用願いたい。
- ② また辞書を使ってどんな効果があったのかの調査もした。この調査からはさまざまな発見や生徒の変容がわかり辞書指導の有効性が確認された。先生方もこの調査結果を参考にされたい。
- ③ 恒例になった夏の語い指導ワークショップを今年も3日間、3カ所で開催した。今回は東日本大震災の影響による電力節約の観点から午前のみ開催とした。例年通り、多くの参加があった。
- ④ 2月23日に江戸川区立篠崎第二中学校にて公開授業および研究発表を開催した。同校の上尾栄美子教諭が2年生の授業を行った。研究部の語い指導、辞書指導も織り交ぜた活発な授業であった。

研究発表は太田恵理子教諭(江戸川区立西葛西中学校)が行った。会場から活発な質問や意見が出された。

プロジェクトチーム部では、来年度から全面実施される新学習指導要領に向けて、『小学校英語活動からの円滑な接続となる中学校の役目』をテーマとして取り組んだ。今年度より小学校においては年間35時間の英語活動が始まり、4月より英語活動を経験した児童が中学校に入学してくる。小学校での英語活動で培われた興味・関心やコミュニケーションを図ろうとする態度を中学校の英語にどのようにつなげば、効果的に中学校英語に生かすことができるのか、英語教員が探る糸口として講師の先生を招聘し、2回の研修会を開催した。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成23年8月22日(月)

会場：豊島区立明豊中学校

講師：駒沢女子大学

太田 洋 准教授

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日時：平成24年2月10日(金)

会場：豊島区立明豊中学校

講師：中部学院大学

久埜 百合 客員教授

※最後に、プロジェクトチーム部は、今年度2回もの研修会を開催することができた。ご多用の中ご指導下さった講師の先生と出席下さった皆様、PT部員に心より感謝申し上げます。

出版部報告

(出版部副部長 小柳 守生)

出版部では、「都中英研だより」を例年通り夏と秋の2回発行し、年度末には本誌「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌の発行は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関へ配布している。また、別途「都中英研ホームページ」にも連携し、都外へも広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

具体的な活動状況は以下の通りである。

- ・「都中英研だより」第61号

(7月15日発行)

都中英研会長挨拶、都中英研総会報告、都中英研年間事業計画、主な研究会・協議会の案内、役員紹介、コミュニケーションテスト紹介などを掲載した。

- ・「都中英研だより」第62号

(12月1日発行)

サマーワークショップ報告、各地区英語研究会の紹介(足立区の取り組み)、プロジェクトチーム部研修会報告、各区市町村英語教育研究部部長会・幹事会報告などを掲載した。

- ・「都中英研会報」第70号

(3月2日発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動

全般のまとめとして、都中英研会長所感、文部科学省・都教委英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各地区活動状況報告、中英研事業報告、各部活動報告などを掲載した。

今年度は、部会を年4回しか開くことができなかった。4回というのは、都中英研だよりと都中英研会報を出版するための最低限の回数である。出版物を滞りなく出版するのが基本的な活動だが、出版部には都内から意欲ある先生方が集まっているので、部員の研修になる活動をもっと取り入れることが望まれる。今年度は、会報発送の部会に合わせ出版部内の研究授業を行ったが、そのような活動を増やしていきたい。また、今までの出版部の活動では、一部の部員に大きな負担を強いる仕事分担になってしまっていることが問題点であると思う。来年度は、部内での仕事の割り振りにも配慮していきたい。

最後に、英語教育に意欲のある先生方の出版部への参加を期待したい。すてきな先生方の集まりでもあり、勉強にもなる会なので、興味のある方は出版部員へ連絡をいただきたいと思う。

第51回 十五大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

札幌大会報告

開催日：平成23年10月7日（金）

会場：ホテルライフォート札幌

1 研究主題

「週4時間体制の英語授業をどう構築するか」（これまでの大会よりも研究の性格を深め、研究主題に沿ったアンケートの実施、その結果を踏まえた提案、各都市からの発表、実践報告、協議、講演という流れを作り、テーマ性のある大会となるよう工夫されていた。）

2 研究主題に向けた具体的な取り組み

事前アンケートを以下の5項目に分類し考察することにした。①4技能を総合的に育成する指導の充実、②4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成、③文法指導と言語活動との一体的な指導、④小学校外国語活動を踏まえた指導の充実、⑤今後の課題等。

《各都市の具体的な実践例》

①に関して：学力検査の結果を踏まえた授業の提案【仙台】、SHOW & TELLの継続的な指導案【東京】、話した内容や聞いた内容の書き起こし【広島】

②に関して：スピーチ【札幌、仙台、名古屋、堺、福岡、北九州】、ディベート【大阪】、内容理解のための「読む」活動【名古屋】、理解した内容を再生【横浜】、ゲーム活動【北九州】

③に関して：内容豊かなコミュニケーション活動【横浜、広島】、自然で無理のない定着・応用・発展【東京・名古屋】、関係代名詞を用いたクイズ【仙台】、ALTの活用【北九州】、活動の目的・身についた力の明示【さいたま、千葉】、テストの工夫【横浜】

④に関して：授業を通しての交流【仙台、

さいたま、大阪、北九州、広島】、音声指導の連携、その他指導の改善【北九州】

⑤に関して：人材の育成、意識の向上、研究会員の増加【仙台、神戸、福岡、札幌、名古屋】、小学校との連携【札幌、千葉、横浜、京都】、指導の改善【さいたま、千葉、名古屋、広島、福岡、北九州、京都】、教科書の効果的な利用【札幌、神戸】、運営上の困難【京都】

3 講演「外国語活動で養われた素地を生かし、中学校で4技能の指導を効果的に行う方法」

講師 中村典生先生

（北海道教育大学釧路校 准教授）

これまでは中学校から外国語教育が始まっていた。「聞くこと」「話すこと」に加え、「読むこと」「書くこと」のいわゆる4技能を中学校に入学した段階で一度に取り扱うことになる。小学校でも4技能すべてを取り扱うとなれば、児童にとって負担の問題が生じてくる。英語嫌いを生み出すことにも繋がりがかねない。

小学校での外国語活動が必修化されたとはいえ、年間35単位時間が確保されているだけ。これまで中学校では4技能を同時に取り扱ってしまうと、音声を中心とした活動が不足してしまうという問題点が指摘されたこともあった。小学校では外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや体験することや、積極的に外国語を聞いたり話したりすることが求められている。正しい英語を話さなくては、ということに目が行きすぎると活発なコミュニケーションの妨げになる。

文字（読むこと、書くこと）の導入は正しさを意識させてしまうことと強い関係がある。まずは限られた時間を一杯使って小学校では音声にしっかり慣れ親しむことに集中し、中学校に入って文字が導入されたら小学校で触れた音声を文字で確認するという流れが望ましい連携である。

（文責 練馬区立豊玉中学校長 井田宗宏）

2011
第61回 全英連総会
全国英語教育研究大会
(奈良大会)

1 大会の主題等

平成23年11月11日(金)・12日(土)の2日間、奈良市において第61回全英連総会及び全国英語教育研究大会が開催された。大会コンセプトは「自律した学習者を育てる英語教育」が掲げられ、各校種間の連携・連続性を大切にしながら、生涯学び続ける学習者の育成をめざした英語教育のあり方を示した。

2 総会・記念講演

- (1) 期日：11月11日(金)
- (2) 場所：奈良100年会館大ホール
- (3) 内容：挨拶・祝辞・会務報告等滞りなく総会が終了した後、記念公演が行われた。

講師：静哲人氏(埼玉大学教授)

演題：「英語授業の心・技・体ー自学させれば良い知識、教授するほかない技能ー」

学校の英語授業は、自習可能な内容よりも生徒のそばに教師がついていなければならないような授業を優先すべきである。すなわち、スピーキングにかかわる技能部分の習得(発音・音読の練習、ペアワーク、ダイアログでの練習等)を重視すべきであるという示唆に富んだ講演であった。学生や生徒が実演している映像がありわかり易かった。

3 授業発表

- (1) 小学校授業ビデオ発表

発表者：菊山清美教諭
(奈良市立富雄第三小学校)

助言者：柏木加津子准教授
(大阪教育大学)

(2) 中学校授業実演

①実演者：川淵弘二教諭
(奈良市立平常東中学校)

助言者：鈴木寿一教授
(京都外国語大学)

②実演者：神山豊彦教諭
(五條市立五條西中学校)

助言者：佐藤臨太郎准教授
(奈良教育大学)

(3) 高等学校授業実演

実演者：山倉晃二教諭
(奈良県立郡山高等学校)

助言者：静哲人教授
(埼玉大学)

・コミュニケーション能力の育成をめざし、小学校ではペアワークやグループワーク、中学校では音読活動、高校では音声のプロダクション活動を重視した授業展開を行った。

4 分科会

- (1) 期日：11月12日(土)
- (2) 場所：手塚山大学学園前キャンパス
- (3) 内容

①小学校の部：2分科会

②中学校の部：9分科会

③高等学校の部：11分科会

5 全英連今後の活動

平成25年度の研究大会は、東京大会となるので、23年度末から、研究発表者の人材発掘を行っていく。

(全英連事務局次長

足立区立湊江中学校長 惣田修一)

第35回 関東甲信地区中学校
英語教育研究会 山梨大会

テーマ

「国際社会の中で生きる
力を育む英語教育をめざして」

～4技能を総合的に活用する指導と
意欲的にコミュニケーションを図る生徒の育成～

期日：平成23年11月11日(金)

会場：ハイランドリゾートホテル
&スパ

1. 期日
平成23年11月11日(金)
2. 会場
ハイランドリゾートホテル&スパ
3. テーマ
「国際社会の中で生きる力を育む
英語教育をめざして」
～4技能を総合的に活用する指導と意欲的にコミュニケーションを図る生徒の育成～
4. 大会日程
9:00 受付
9:40 開会行事・全体会
10:20 記念講演
11:40 移動・昼食
13:10 公開授業
14:15 分科会
16:30 終了
5. 参加者総数
430名
6. 大会の内容
 - (1) 開会宣言
 - (2) 大会会長あいさつ
 - (3) 来賓祝辞
 - (4) 来賓紹介
 - (5) 大会主題提案
 - (6) 記念講演
講師 山梨大学准教授
田中武夫先生

演題 The Use of Inferential
Questions in Reading
Instruction

(7) 分科会

<第1分科会>

◇4技能を総合的に活用する指導の工夫
「書くこと」を中心にして

◆公開授業 河口湖南中 深沢明彦教諭

◆指導助言 山梨県立大

杉田由仁准教授

県外提案 東京都・千葉県・茨城県

<第2分科会>

◇4技能を総合的に活用する指導の工夫
「読むこと」を中心にして

◆公開授業 吉田中 梶原 満教諭

◆指導助言 山梨大 田中武夫准教授

県外提案 神奈川県・栃木県・長野県

<第3分科会>

◇4技能を総合的に活用する指導の工夫
教科書の活用方法を中心にして

◆公開授業 忍野中 千葉玲子教諭

◆指導助言 山梨大 古家貴雄教授

県外提案 埼玉県・群馬県

<特別分科会>

小学校英語活動から中学校英語を考える

(1)ビデオによる授業公開

下吉田第一小 野澤 彰教諭

” 加藤真弓教諭

(2)県内実践発表

身延小 小林 努教諭

甲府東中 今村淳一教諭

甲運小 古屋昌美教諭

(3)指導助言

都留文科大 三浦幸子准教授

(渋谷区立鉢山中学校長 松岡敬明)

各地区の活動状況

千代田区	24左
中央区	24右
港区	25左
新宿区	25右
文京区	26左
台東区	26右
墨田区	27左
江東区	27右
品川区	28左
目黒区	28右
大田区	29左
世田谷区	29右
渋谷区	30左
中野区	30右
杉並区	31左
豊島区	31右
北区	32左
荒川区	32右
板橋区	33左
練馬区	33右
足立区	34左
葛飾区	34右
江戸川区	35左
八王子市	35右
立川市	36左
武蔵野市	36右
三鷹市	37左
青梅市	37右
府中市	38左

昭島市	38右
調布市	39左
町田市	39右
小金井市	40左
小平市	40右
日野市	41左
国分寺市	41右
国立市	42左
福生市	42右
狛江市	43左
東大和市	43右
清瀬市	44左
東久留米市	44右
多摩市	45左
稲城市	45右
あきる野市	46左
西東京市	46右
羽村市・西多摩	47左
大島	47右
八丈島	48左

千 代 田 区

I. 研究主題

「少人数制をいかした授業研究」
～個に応じた指導、学習意欲を高める
教材開発～

II 研究の経過

- ◇4月 千代田区一斉部会
- ◇5月 英語部会
研究主題・研究計画の作成
- ◇6月 情報交換会
- ◇8月 夏季研修会
「ICTを用いた授業」
- ◇9月 授業研究
- ◇10月 授業研究
小学校外国語活動への参加
- ◇11月 情報交換会
- ◇12月 研究のまとめ
- ◇1月 講演、講義
「増える1時間の使い方」
～1・2年前の教科書本文の使い方～
講師：駒沢女子大学准教授
太田 洋先生
- ◇2月 バスタロッヂ祭
(神田一橋中学校主幹教諭 鈴木達彦 記)

中 央 区

I. 研究主題

「表現力を高めるための指導の工夫」

II. 活動の経過

- ◇4月13日
英語部組織作り、研究主題決定
年間活動計画作成
- ◇4月14日
1学年研究授業（銀座中学校）
「Let's Start」
授業者：西村知代子 教諭
- ◇6月～1月
平成24～27年度中央区中学校年間指導
計画作成
- ◇9月21日
スピーキングテスト内容検討
日程決め・役割分担
- ◇10月11日
3学年研究授業（佃中学校）
「Let's Talk 2 電話をください」
授業者：田中光一 教諭
- ◇1月18日
3学年研究授業（日本橋中学校）
「Lesson 8 Sharing with Language」
授業者：品川智佳子 教諭
- ◇1月25日
教育会研究発表会
◎講演「当面する中学校教育の課題」
講師：渋谷区立上原中学校校長
大江 近 先生
- ◇2月22日
今年度の反省
(佃中学校副校長 柳 歆子 記)

港

区

I. 研究主題

「小中連携を進める指導法の工夫」

II. 活動の経過

◇5月25日(水)研究主題決定、組織づくり

◇6月15日(水)年間活動計画決定

「ODAIBAプラン」の概要説明

国際科、英語科国際の実施状況についての
情報交換

◇9月14日(水)研究授業、講演

授業者：堀慎一郎 教諭、進藤大岳教諭

(お台場学園港陽小中)

講演「小学校英語活動と新しい教育課程
における中学校外国語科の授業づくり」

講 師：国立教育政策研究所

山森 光陽主任研究官

◇11月16日(水)英語発表会

(於高輪区民センター)

審査委員長：Ms. Kaori Church

◇1月18日(水)講演会

「中学校における入門期の指導」

講 師：港区立赤坂中学校

北原延晃教諭

◇2月8日(水)1年間のまとめ

III. 次年度に向けての課題

小学校から中学校への円滑な接続のため、
指導方法、指導内容等について、小学校
国際科研究部会と連携・協力しながら継
続し研究していく。

(高陵中学校長 新庄恵子 記)

新

宿

区

I. 研究主題

「指導と評価の一体化」

①定期考査における観点別問題の在り方

②小中連携を踏まえた英語指導

II. 活動の経過

◇5月11日 新中教研一斉部会

組織作り・研修テーマ・計画決定等

◇7月8日 授業研究 (於：西新宿中)

授業者：井原章行教諭・ALT

講 師：久保野雅史先生

(神奈川大学外国語部准教授)

◇7月29日 夏季英語部研修会(全日)

講 師：竹田秋人先生(午前)

(新宿区国際理解教室長)

山本展子先生(午後)

(東京都教職員研修センター)

午前「ALT授業の現状と課題」

午後「望ましい定期考査問題の在り方」

◇8月19日

第27回新宿区英語学芸発表会

◇10月12日 一斉部会(於：愛日小)

小学校英語活動参観

◇12月1日 授業研究(於：新宿中)

授業者：田村藤江教諭・ALT

講 師：石村康代先生

(日野市立日野第三中学校長)

◇12月4日 東京都英語学芸大会参加

プレイの部 牛込第二中学校

◇2月13日 授業研究(於：牛込第一中)

授業者：相川徳彦教諭

講 師：松澤喜好先生(予定)

(牛込第一中学校主幹教諭 関 実 記)

文 京 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇4月22日

英語部組織作り、研究主題決め

◇11月18日・19日

全国英語教育研究団体連合会参加
田村茂雄教諭（文京区立第八中学校）

◇11月17日

研究授業・研究協議会

授業者：小島容子教諭（文京八中）

講 師：和田雅光先生（本郷台中）

内 容：Thanksgiving Day

内容：「生徒一人一人が積極的にコミュニケーション活動に参加できる授業を目指して」というテーマで、パワーポイントを駆使して生徒と英語によるコミュニケーションを行う素晴らしい研究授業であった。

◇1月19日

区中研英語部会：講演

講 師：馬場哲夫先生（学芸大学）

内 容：来年度から本区で使用される『TOTAL ENGLISH』の教科書の特徴や内容、使用法についての講演であった。初めて使用する教員も多く、大変示唆に富んだ内容で、来年度からの授業の展望が開かれた講演であった。それに先立ち、文京八中の田村茂雄教諭より、全英連参加にあたり、その内容報告があった。

（茗台中学校主幹 阿久津 仁史 記）

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領における
改善点への対応」

－4技能を総合的に育成する指導の工夫－

II. 研究の経過

◇4月18日 第1回英語部会

①役員選出

②年間予定確認

③研究テーマについて

◇7月13日 授業研究

①各校の工夫

②補助教材について

③A L Tの活用

◇10月12日 研究授業・協議会

・授業者：細山理恵 主任教諭
坂口嘉奈子 教諭

（駒形中）

・授業内容：New Crown 1 L.5

・講師：醍醐路子 先生

（豊島区立駒込中学校校長）

◇11月12日 連合英語学芸会

レシテーションの部

スピーチの部

劇の部の発表

・英語による発表と今後の運営等に向けての協議

（駒形中学校主任教諭 細山理恵 記）

墨 田 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の育成と
表現力の指導の工夫」
～ICT機器の活用を通して～

II. 活動経過

◇4月13日 研究総会・一斉部会

①本年度役員の確認

②研究主題・年間活動内容の検討

◇6月30日 区中研前期研究授業

・授業者：栖原 昂 教諭

荒井 麻希 教諭

(寺島中学校)

・講 師：山本 展子 先生

(都研修センター教師道場担当教授)

杉本 薫 先生

(都立両国高校附属中学校主任教諭)

◇7月27日

区中研英語部夏季研修会

①場所：寺島中学校

②内容：「小学校外国語活動との接続
を踏まえた講義及びワークショップ」

③講師：スチュアート ニールソン先生

(アイエック英語教育相談員)

◇11月30日 区中研後期研究授業

・授業者：中島 由香 主任教諭

(豎川中学校)

・講 師：西貝 裕武 先生

(隅田小学校副校長)

◇2月15日 区中研 研究発表会

(寺島中学校長 田谷至克 記)

江 東 区

I. 研究主題

「基礎学力の充実を目指した指導と評価
の工夫」(小学校の英語活動と結びつ
けて)

「新学習指導要領への移行を考えた指導
と評価」

II. 研究の経過

◇5月6日 区中研一斉部会

・会場 深川第四中学校

・内容 活動計画、組織作り等

◇6月30日 区中研前期研究授業

・授業者 百武千恵美 教諭

(深川第三中学校)

ALT: Luke Lawrence

・単元 「フォニックスを用いた
単語の学習」

◇7月26日～29日 夏季集中講座

外国人講師によるワークショップ

・場所 British Council

◇10月19日 区中研後期研究授業

・授業者 山本明生 教諭

(第二亀戸中)

・単元 Columbus 21 1学年

Unit 7

◇11月8日 江東区英語学芸会

・会場 江東区カメリアホール

・内容 speech, play, others

・play部門：“Peter Pan” 都大会出場

(深川第三中学校)

◇11月17日 小学校英語研修会

◇2月8日 区中研一斉部会

(深川第六中学校教諭 原田晴美 記)

品川区

I. 研究主題

「小中学校英語科における指導と評価の在り方」

II. 活動の経過

- ◇ 4月20日、5月11日
今年度の活動方針について (1) (2)
- ◇ 6月1日 研究授業
授業者：矢野 聡・小野澤涼子 教諭
(伊藤学園)
講 師：吉田研作 教授 (上智大学)
- ◇ 7月 6日 研究授業
授業者：橋本菜穂子 教諭 (日野学園)
講 師：太田 洋 准教授 (駒沢女子大学)
- ◇ 9月 7日 講演会
講 師：吉田研作 教授
- ◇ 10月5日 研究授業
授業者：近藤光代 教諭 (品川学園)
講 師：山本新治 室長 (三菱商事海外子
女教育相談室長)
- ◇ 11月 8日 英語学習成果発表会 (中学校)
- ◇ 11月 9日 研究授業
授業者：渡邊祐子 教諭 (山中小学校)
講 師：太田 洋 准教授
- ◇ 12月 7日 研究授業 (中学校と同日開催)
授業者：梶田佳江 教諭 (戸越小学校)
講 師：太田 洋 准教授
- ◇ 12月 7日 研究授業 (小学校と同日開催)
授業者：富山 健 教諭 (日野学園)
講 師：山本新治 室長
- ◇ 12月 8日 英語学習成果発表会 (小学校)
- ◇ 2月 1日 研究発表会
(大崎中学校副校長 岩崎紀美子 記)

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 4月13日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- ◇ 7月13日 入門期の実態調査
テスト問題検討
- ◇ 9月13日 授業実践情報交換
- ◇ 11月 9日 スピーチコンテスト
審査員・講師 坂下孝憲 先生
(北区教育委員会)
目黒十一中 3年生優勝
- ◇ 11月11日 関プロ山梨大会 2名参加
- ◇ 12月 7日 研究授業
東山中 佐藤 文 先生
講 師：工藤洋路 (東京外国語大学)
- ◇ 1月11日 小中連携の
外国語指導モデルカリキュラム検討
- ◇ 2月1日 1年間のまとめ
関プロ報告
学力向上を図るための調査報告
講演会
指導講師：角田幸彦 先生
「授業改善に向けて」
(教師道場実践的指導より)
<まとめ>
小学校英語活動との連続を意識して、中
学校入門期の実態調査を試行し、授業改
善について多様な工夫を共有することが
できた。目黒区小中連携モデルカリキュ
ラムをもとに新教科書での入門期の指導
内容を研究できた。小学校との連携をさ
らに進めていきたい。
(第四中学校校長 牛島順子 記)

大 田 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導
の工夫」

II. 研究の経過

◇4月13日 一斉部会（大森七中）

- ・組織編成及び部員名簿作成
- ・授業研究等にかかわる協議

◇9月22日 研究授業（大森三中）

授業者 和田花枝 教諭

講 師 文教大学 阿野幸一 准教授

◇10月12日 小中連携事業

（東調布第三小）

授業者 小山田 雅 教諭

講 師 玉川大学 佐藤久美子 教授

◇11月11日 連合学芸会

会場 大田区民センター

スピーチ23人 劇3校が発表

区代表は出雲中の桑野 瞳さんが“What
We Need in the International Society”
で都英語学芸会に出場

◇12月～2月 研究紀要作成

◇2月8日 一斉部会（大森七中）

一年間の活動のまとめ

講演会

「教科書を活用した言語活動の実際」

講 師 東京学芸大学 馬場哲生 教授

（大森第七中学校長 原田承彦 記）

世 田 谷 区

I. 研究主題

①「4技能を統合的に活用できるコミュニ
ケーション能力」を育成する指導
と評価の工夫

②小学校英語活動から中学校英語科指導
への円滑な接続の工夫

II. 研究の経過

◇5月11日 世中研総会

◇6月1日 前期研究会：授業研究会

授業者：大屋 剛 教諭（烏山中学校）

◇8月3日 夏期研修会（梅丘中学校）

A L T についての情報交換

スピーチコンテスト打合せ

講 師：埼玉大学

及川賢 准教授

千代田区立九段中等教育学校

本多敏幸 教諭

◇10月1日 第22回スピーチコンテスト
予選会

（中町ふれあいホール）

◇11月9日 第22回スピーチコンテスト
本選大会

（成城ホール）

◇11月15日 国公私立交流会

授業者：阿部基裕 教諭

（駒場東邦中学校）

◇1月25日 世中研研究発表会
（区民会館）

◇2月17日 3学期授業研究会

授業者：辻村美代子 教諭

大澤敬史 教諭（富士中学校）

（砧中学校教諭 稲木あゆみ 記）

渋谷区

I 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫」
～新学習指導要領の全面実施に向けて～

II 研究経過

◇4月27日

渋谷区立中学校教育研究会総会
一斉部会、組織づくり、研究主題確認、
研究授業者確認

◇11月9日

一斉研究授業
授業者 矢野 教諭（代々木中）
講師 松岡敬明校長（鉢山中）
内容 比較表現を題材としたコミュニ
ケーション能力育成の指導

◇12月4日

東京都英語学芸大会参加
会場 豊島区立千登世橋中学校
参加校 本町中学校 スピーチ

◇2月15日

研究発表会
会場 広尾中学校
講師 東洋大学非常勤講師
荒木秀二 先生
演題 小学校外国活動を踏まえた中学
校英語教育の在り方
内容 小学校外国語活動との円滑な
接続中学校における留意点等
（鉢山中学校長 松岡敬明 記）

中野区

I. 研究主題

「全ての生徒が生き生き参加できる授業
の工夫～少人数授業と評価をめぐって～」

II. 研究の経過

◇4月20日 中野区中教研 英語部会

・今年度の方針及び組織作り

◇6月15日 中野区中教研 英語部会

内容：「少人数授業の各校実践例」
・少人数授業のクラス分けの仕方
・利点と課題
・評価の仕方
・授業の進め方と打ち合わせ
・ALTの授業の入れ方

◇8月25日 中野区中教研 英語部会

夏季研修会
内容：「少人数指導」
講師：北原延晃先生
（港区立赤坂中学校主任教諭）

◇10月19日 中野区中教研 研究日

研究授業と研究協議
授業者 内山由紀江教諭 Nic
（区立第十中学校）
（中野区ALT）

「中学二年生の授業 値段を聞くとき」

◇10月29日 中野区英語学芸会
野方WIZホールにて6校、9組が参加。
区立第九中学校が中野区代表として
東京都大会に劇部門で出場した。

◇2月15日 中野区中教研 研究発表会

内容：今年度の主題に沿ったテーマ
講師を依頼予定
（緑野中学校教諭 浦 和美 記）

杉 並 区

I. 研究主題

「4技能を総合的にはぐくむ指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 杉並教育研究会一斉部会
・研究主題・組織・年間計画
- ◇8月1・2・3日
夏季ワークショップ
・「授業の展開の仕方」
Mr. John Grant (British Council)
・「観点別評価を意識したテスト問題の作成について」竹田秋人先生 (新宿区教育委員会教育指導課教育センター国際理解室長)
・「Communication 指導に広がりや深みを！」田邊祐司先生(専修大学文学部教授)
・小中連携「小学校6年生と中学1年生の連携報告」村山律子先生(杉並区悉皆研修講師)
・西貝史織先生(和泉小学校)、
司会：大川照子先生(和田中学校)
・情報交換
「ALT・少人数指導等」司会：藤森眞保子先生
(大宮中学校)
- ◇11月4日 英語学芸発表会14校参加 優勝
Let's Respect “Mottainai”
秦光君(天沼中学校)
- ◇研究授業11月28日(月)
川谷ゆかり先生(神明中学校)
講師：都留文科大学 安原美代先生
- ◇12月13日(火) 芳賀逸子先生(和田中学校)
講師：渋谷区立鉢山中学校校長
松岡敬明先生
- ◇12月19日(月) 末永麗先生(松ノ木中学校)
講師：杉並区立和泉中学校副校長
比嘉朝明先生
- ◇1月26日 冬季英語部ワークショップ研究
授業：芳賀逸子先生(和田中学校)
- ◇2月15日杉並教育研究会一斉部会
発表者：脇真弓先生(天沼中学校)
講師：久保野雅史先生(神奈川大学外国語学部英語英文学科准教授)
- ◇杉並区リスニングコンテスト1・2年生参加
(東田中学校教諭 平出敏 記)

豊 島 区

I. 研究主題

「小中連携を生かした中学校英語指導のあり方」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 区中研一斉部会
組織作り、研究主題、年間活動計画、
全英連、関ブロ、英語学芸会の確認
- ◇10月21日
英語主任会
中学校教育課程編成資料の作成
- ◇11月9日
区中研小中合同一斉部会 (池袋第三小学校)
・研究授業 (小学校5年)
研究主題：「豊かなコミュニケーション能力をはぐくむ英語活動」
授業者：浅利元貴 (池袋第三小学校教諭)
単 元：SCHOOL DIRECTION
・研究協議
小中合同によるグループ協議
・指導・助言
講 師：渡邊寛治 先生
(文京学院大学教授)
- ◇12月4日 英語学芸大会
会 場：豊島区立千登世橋中学校
参加校：明豊中がPLAYの部に参加
(東京都第三位に入賞)
- ◇1月11日 区中研教科発表会
・研究授業 (中学校1年)
授業者：天野 弘
(千登世橋中学校主任教諭)
単 元：STUDENTS IN THE USA
・指導・助言
講 師：山本展子 先生
(東京都教職員研修センター教授)
(池袋中学校主幹教諭 菅野宏治 記)

北

区

I. 研究主題

「小学校の外国語活動を受けて、実践的コミュニケーション能力の向上をめざした授業の工夫」

II. 活動の経過

- ◇4月20日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部 中学校部会組織作り、研究目標、活動計画、小中一貫カリキュラム、情報交換
- ◇5月18日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部 小中合同部会
- ◇11月11日 連合英語学会
場 所：北区立滝野川会館
参加者：7校11名
最優秀生徒（桐ヶ丘中2年）
東京都英語学芸大会に参加。
- ◇11月30日 中学校研究授業
授業者：林 真裕美教諭（神谷中）
対 象：中学校1年
単 元：P.6 シアトルでの1日
講 評：外国語教育アドバイザー
宗方隆三、坂下孝憲、三浦邦子
- ◇12月5日 東京都英語学芸大会
英語スピーチ参加
- ◇12月7日 小学校研究授業
授業者：滝野川第七小学校
- ◇2月16日 中学校研究授業
授業者：木下か枝主幹教諭・小原ふみ子教諭・ALT（桐ヶ丘中）
対 象：中学校2年
単 元：P.9 A Cool Car, a Clean Future
講 師：外国語教育アドバイザー
（堀船中学校副校長 石川慎一郎 記）

荒

川

区

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」～新指導要領に向けて(最終年度)～

II. 活動の経過

- ◇4月13日(水) 部づくり
上記研究主題を設定し、電子黒板導入2年目であることからスローガンを「世界につながる荒川の英語教育」とした。
- ◇7月6日(水) 講演会
講師：東京外国語大学 工藤洋路氏
テーマ「平成24年度からの中学校における外国語の指導のあり方」
- ◇9月14日(水) 小中合同部会
会場：尾久小学校
「行ってみたい国を紹介しよう」
- ◇9月21日(水) 講演会
会場：第一中学校
講師：阿字宏康校長(第一中学校)
- ◇スピーチコンテスト
会場：サンパール荒川小ホール
- ◇11月16日(水) 研究授業
小中合同部会
会場：尾久八幡中学校
授業者：加藤恵教諭、小倉清美教諭
澤田真樹子主任教諭
単元名：Assistance Dogs
- ◇1月18日(水) 研究授業
会場：南千住第二中学校
- ◇2月15日(水) 研究発表大会
紙上発表
（諏訪台中学校主幹教諭 山崎 聡 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「言語活動を充実させるための指導方法の工夫」

II 活動の経過

- ◇4月20日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題及び年間研究活動計画等の策定
- ◇7月1日 第1回研究授業
授業者：高田明子（志村三中）
講 師：青山学院大学 木村松雄教授
- ◇8月3日 夏季ワークショップ
講 師：駒沢女子大学 太田洋准教授
- ◇11月8日 「英語のつどい」開催
会 場：板橋区立アクトホール
参加校：16校
結 果：板二中の劇 Dream Fireworks（亀野弘子教諭演出）が区代表として都学芸大会に出場した。
- ◇11月9日 第2回研究授業
授業者：石村頼子、井上育美、成田貴子（上板橋三中）
- ◇1月27日 第3回研究授業
授業者：北川哲朗（高島二中）
講 師：東洋学園大学 加藤良則教授
- ◇2月2日 区中研教科別発表会
＜テーマ及び発表者＞
 - ①小学校外国語活動における音声指導の可能性」西山十海（板一中）
 - ②言語活動の一環として英語で表現する力を育てる指導」標 清栄（向原中）
 - ③『話す』活動と『聞く』活動の充実を目指して」向田武志（高島三中）（高島第一中学校主任教諭 服部智恵 記）

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を培う。また新学習指導要領を踏まえた授業研究を行う。」

II. 活動の経過

- ◇5月18日 区中研一斉部会
- ◇6月22日 授業研究会（大泉学園桜）
授業者：高橋吉久主任教諭
竹腰佑妃教諭
- ◇7月28日・29日 夏期研修会
 - * 「ことばの力を育てる英語の授業」
講 師：杉本 薫 先生
（都立両国高等学校附属中学校）
 - * 「テストイング」
講 師：重松 靖 先生
（国分寺市立第三中学校）
 - * 「外国語活動と英語指導の連携・連続性を考える」
講 師：田近裕子 先生
（津田塾大学英文科主任教授）
 - * 「文法指導をデザインする」
講 師：田中武夫 先生
（山梨大学教育人間科学部准教授）
- ◇11月5日 英語学芸会
会場 練馬公民館
“Never-opened Door”
（都立大泉高等学校附属中学校）
都大会出場
- ◇11月9日 授業研究会（石神井西中）
授業者：荒木 忍 主幹教諭
（石神井東中学校副校長 阿部啓介 記）

足 立 区

I. 研究主題

「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成～小中連携をふまえて～」

II. 活動の経過

- ◇4月20日 一斉教科部会（第十中）
研究テーマ、事業計画作成および組織作り
- ◇5月8日 第1回研修会（第十四中）
4技能統合について理論と実践
講 師：明海大学名誉教授
和田 稔 先生
- ◇7月13日 第2回研修会
第1回研究授業（第十四中）
授業者：第十四中 富家慎也 教諭
講 師：墨田区立隅田小学校副校長
西貝裕武 先生
- ◇7月28日 第3回研修会
夏季研修会（第十四中）
4技能統合 スピーキング指導
講 師：シャンタール・ヘンミ 先生
第六中 紺野正典 教諭
- ◇9月14日 小中合同研修会（皿沼小）
研究授業
- ◇10月12日 第4回研修会
第2回研究授業（新田中）
授業者：新田中 新井正秀 教諭
講 師：文部科学省 平木 裕 先生
- ◇10月21日 連合英語学会
（足立区庁舎ホール）
スピーチの部 優勝 東島根中
劇の部 優勝 第十二中
*第十二中は、都大会でも優勝しました。
- ◇11月16日 小中合同研修会（辰沼小）
マイクロティーチング
- ◇1月18日 第5回研修会
第3回研究授業（第六中）
授業者：第六中 紺野正典 教諭
講 師：シャンタール・ヘンミ 先生
- ◇2月1日 一斉教科部会（第十四中）
今年度の研究内容の発表
講 師：明海大学名誉教諭
和田 稔 先生
（第十四中学校教諭 三輪政継 記）

葛 飾 区

I. 研究主題

「基礎基本の定着を図りながら、コミュニケーション能力の育成を目指す指導の在り方」

II. 活動の経過

- ◇4月21日 A L T導入全校説明会、割当調整会議
- ◇5月11日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換
- ◇7月27日 小中合同英語教育研究会
- ◇10月13日 第26回葛飾区立中学校英語スピーチ&プレイコンテスト
（かめありリリオホール）
レシテーション：6名、プレイ：2校、スピーチ1：8名、スピーチ2：20名参加
スピーチ2の優勝者（本田中3年）が都英語学会に出場した。
- ◇10月19日 研究授業・研究協議会
授業者：中澤徹也 主幹教諭（四ツ木中）
講 師：高山芳樹 先生
（東京学芸大学准教授）
- ◇3月8日 研究授業・研究協議会
授業者：住吉美香 教諭（大道中）
講 師：未定
- ◇3月21日
役員会：23年度反省、24年度活動計画案
指導法研修会：デジタル教科書の効果的な活用
（高砂中学校長 余野直紀 記）

江戸川区

I. 研究主題

「新学習指導要領への移行を踏まえた指導計画・指導内容の工夫」

II. 研究の経過

◇6月8日 研究授業

授業者 大枝 恵子 教諭
(小松川第二中学校)

講師 東京外国語大学専任講師
工藤 洋路 先生

内容 新教育課程で求められる
英語指導

◇7月29日 夏季研修会

会場 松江第六中学校

講師 東京外国語大学専任講師
工藤 洋路 先生

テーマ 生徒のコミュニケーション
能力を高める指導の工夫
(教科書を使った授業の進め方)

内容 講義・演習「授業の作り方」
グループごとの指導案
作成・検討
発表・協議 他

◇11月～12月 スペリングコンテスト

実施校 全中学校2・3年生

表彰 各校の基準に従って合格者に
賞状を授与する

◇2月7日 研究授業

授業者 岡 大祐 教諭(東葛西中学校)

講師 足立区立竹の塚小学校校長
難波 浩明 先生
(松江第六中学校長 清野 正 記)

八王子市

I. 研究主題

「小中連携に基づく授業力の向上」

II. 活動の経過

◇4月18日 教科主任会

テーマ設定、組織、活動計画確認

◇6月21日(火) 研究授業 館小中学校

授業者 志村 真一 教諭(館小中)

講師 市内英語担当校長・副校長

◇7月27日(水) パワーアップ研修会

授業力・英語力のブラッシュアップ

〔午前〕「フォニックス指導法の理解と
運用力の向上」(講義・演習)

講師 柳田 叔代 氏(株)m pi

〔午後〕「ネイティブ講師による英語力の
ブラッシュアップ」(演習)

講師 Ashton Steven氏(財)ELEC

◇11月2日(水) 一斉部会 研究授業

1ブロック

授業者 木幡 佳子 教諭(石川中)

講師 窪田 香 先生

(国立市教育委員会指導主事)

2ブロック

授業者 網野千恵子 教諭(楯原中)

講師 紺谷 祥一 先生

(八王子市立第一中学校副校長)

3ブロック

授業者 佐藤 優 教諭(陵南中)

講師 中谷 愛 先生

(多摩市教育委員会指導主事)

4ブロック

授業者 中田真記子 教諭(松木中)

講師 橋本 浩 先生

(八王子市教育委員会指導主事)

(陵南中学校副校長 竹内康裕 記)

立 川 市

I. 研究主題

「自ら学ぶ力を育て、確かな学力の
定着を図る。」

II. 研究の経過

◇5月11日 一斉教科部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇7月28日 研修会①

テーマ「語彙指導・生徒の表現力
を高める指導」

講 師 山本崇雄 先生
(都立両国高等学校附属中学校)

内 容 picture describing 等を
活用した指導方法について

◇8月24日 研修会②

テーマ「語彙力を増やす指導の工夫」

講 師 青柳有季 先生
(東京学芸大学附属世田谷中学校)

内 容 カード、ワークシート等を活用
した指導方法の紹介

◇11月29日 研究授業

授業者 矢澤昭治 先生
(立川市立立川第三中学校)

内 容 New Crown English
Series 2
動名詞の導入と活用
(立川第八中学校教諭 渡辺 淳 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「発信力を高める指導の工夫」
～コミュニケーションへの関心・意欲・
態度について～

II. 活動の経過

◇4月20日 教育研究会一斉部会

組織作り、研究主題決定、情報交換

◇5月11日 定例部会

今年度の予算、研究の進め方について、
情報交換

◇9月14日 市教育研究会講演会

◇10月12日 定例部会(研修会)

内容「新学習指導要領をふまえ、スム
ーズな移行をするため、今日の授業ででき
ること」

講 師 国分寺市立第三中学校
重松 靖 校長 先生

◇11月9日 定例部会

各校の評価に関する報告会(資料交換)
と講演会

講 師 東洋学園大学講師
荒木 秀二 先生

◇1月18日 研究授業(第2学年習熟度別
少人数授業)・協議会

内 容 Lesson 6 Ratna Talks about
India

授業者 二日市 克 教諭(二中)
小柳 隆 教諭(二中)
高木 祥子 教諭(二中)

(第一中学校主任教諭 高山 和美 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「小・中連携した英語コミュニケーション能力の育成」

II. 研究の経過

4月20日 鷹教研総会・一斉部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

5月11日部会

次回研究授業指導案検討

6月8日部会

テーマ「Sports&Likes」

授業者：佐々木奈保 教諭, ALT

(井口小学校)

講 師：松永透先生

(三鷹市教育委員会)

9月7日部会

テーマ「Speech」

授業者：塚越喜美枝 教諭

(第一中学校)

講 師：松永透 先生

10月5日部会

テーマ「Shopping」

授業者：飯島俊輔 教諭, ALT

講 師：伊藤悌夫 先生

(都教職員研修センター)

11月9日部会

テーマ「比較の文」

授業者：山本昌人 教諭, ALT

講 師：山本新治 先生

(練馬区関中学校元校長)

○小中連携に基づく指導方法の在り方

1月18日部会

研究のまとめ

(第一中学校教諭 梅津秀一 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」

一小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために一

II. 研究の経過

◇5月11日 中教研総会・部会

◇6月8日 外国語活動授業参観

・授業者：松川靖弘 教諭 (河辺小)

◇7月7日 授業研究

・授業者：斎藤恭子 教諭 (霞台中)

・授業内容：Total English 1-4-A

◇8月12日 研究協議会

・“Student Teacher”を核とした、学習効果を高める“English Group”の設定と運用について

提案者：田中眞 教諭 (第六中)

・1学期の活動の成果と課題

◇10月24日 講演会

・「新学習指導要領への対応と教科書の適切な活用方法」

・講師：東京外国語大学教授
根岸雅史 先生

◇1月18日 講演会

・「小学校外国語活動の充実に向けて」
(小・中連携と小・小連携)

・講師：文部科学省初等中等教育局
教育課程課・国際教育課
教科調査官／国立教育政策
研究所教育課程研究センター
教育課程調査官

直山木綿子 先生

(第六中学校副校長 田中 眞 記)

府 中 市

I. 研究主題

「小・中の英語指導の連携を図る一小学校で学んだ内容を生かし、コミュニケーション能力を伸ばす指導のあり方」

II. 研究の経過

◇6月8日 ワークショップ

講 師：駒沢女子大学
太田洋 准教授

内 容：音声指導の重要性について

◇7月6日 英語活動研究授業

授業者：南町小学校 浅野学 教諭

◇8月17日 夏季ワークショップ

講 師：九段中等教育学校
石井亨 主任教諭

内 容：中学校の文字指導の実践例

◇9月7日 ワークショップ

講 師：駒沢女子大学
太田洋 准教授

内 容：retellingと文法指導

◇10月14日 研究授業

授業者：第二中学校 前川卓哉 教諭

講 師：足立区立第十四中学校
渡辺雅子 教諭

◇11月9日 英語活動研究授業

授業者：第八小学校
佐々木真吾 主任教諭

◇1月11日 研究授業

授業者：第三中学校
作田由起子 教諭

講 師：三菱商事株式会社海外子女
教育相談室室長
山本新治様

◇2月1日 府教研研究発表

(第二中学校教諭 前川卓哉 記)

昭 島 市

I. 研究主題

「基礎の定着から表現力へ」

II. 研究の経過

◇4月20日 部会

・研究主題設定、年間活動計画、組織作り

◇5月25日 部会

・各校からワークシートを持ちより、工夫点を話し合う

・ALTの情報交換

◇10月5日 研究授業

授業者 瑞雲中学校

神林恵二 主任教諭

内容 New Horison I Unit 6

◇1月26日 部会

「小中連携について」

拝島第二小学校

参加 2校 5名

◇1月30日 部会

「小中連携について」

共成小学校

参加 1校 2名

◇2月3日 部会

「小中連携について」

つつじが丘南小学校

参加 2校 7名

(瑞雲中学校教諭 沢田正純 記)

調 布 市

I. 研究主題

「生き生きと学び、教えるために
－魅力ある授業法を実践例から学ぶ－」

II. 研究の経過

◇5月11日 調中研総会、一斉部会

- ・本年度役員の確認
- ・研究主題、活動計画の検討

◇6月15日 授業実践の情報交換

◇8月23日 研修会

「スピーキング活動3年間の記録」

講 師：北原 延晃 主任教諭
(港区立赤坂中学校)

内 容：どのように効果的な英語指導を行
っていくのか、実演を含めた形で、
北原メソッドと呼ばれる指導法を
教えていただく。

◇2学期中 授業参観

「小学校の英語活動の参観」

◇11月9日 公開授業、協議会

授業者：加藤 真由子 教諭
(調布市立第五中学校)

授業内容：NEW CROWN 2 Lesson 6③

◇1月11日 研修会

「新学習指導要領について」

講 師：本多 敏幸 主任教諭
(千代田区立九段中等学校)

内 容：新学習指導要領で求められている
言語活動を、どのように実践して
いくか、また授業をどのように魅
力あるものにしていくかを教えて
いただく。

◇2月8日 研究発表会

(調布中学校教諭 桑原順子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「新指導要領に向けて指導内容の研究」

II. 研究の経過

◇4月13日 一斉部会

- ・組織作り
- ・研究主題と年間活動計画

◇5月12日 定期総会

◇11月9日 講演会

講師：嶋本誠 部長

(学校図書 第一編集部)

内容：新しい教科書の特色について、小
学校英語との円滑な接続という観点から、
内容の構成や配列をわかりやすく解説い
ただいた。電子黒板用ソフトのデモンス
トレーション等を入れながらの教材紹介
や、質疑応答を通して、より具体的に新
指導要領で行う授業を各自考えることが
できた。

◇2月1日(予定)

新指導要領を見通して、授業で工夫でき
る活動のワークショップ

講師：及川賢 准教授

(埼玉大学)

(葉師中学校教諭 廣瀬知美 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「豊かなコミュニケーション
能力の育成をめざして」

II. 研究の経過

◇4月27日（水）

市教研総会・研究部会

- ・研究主題の決定
- ・組織作り
- ・今年度の日程確認
- ・情報交換

◇6月1日（水）

情報交換

◇10月12日（水）講演会

「新学習指導要領に基づく
教科書の改訂について」

講 師：高橋 貞雄

玉川大学教授

◇11月2日（水）部会

「デジタル教材について」

- ・実際に使用して画面や操作性などを確認

◇1月13日（金）講演会

「新学習指導要領の全面実施に向けて」

講 師：重松 靖

国分寺市立第三中学校長

◇2月8日（水）

研究発表・講演会

- ・今年度のまとめ
- ・来年度に向けて

（東中学校教諭 月尾 洋 記）

小 平 市

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成し、コミュニケー
ション能力を高める指導法の工夫」

II. 研究の経過

◇4月20日 小平市中学校教科研究会組織
づくり年間計画

◇7月28日 研修会（練馬区研修会に参加）

①内容：ことばの力を育てる英語の授業

講 師：杉本 薫 先生

（都立両国高校附属中学校）

②内容：テストニング

講 師：重松 靖 先生

（国分寺市立第三中学校）

◇7月29日 研修会（練馬区研修会に参加）

①内容：小学校の外国語活動と中学校英
語指導の充実

講 師：田近 裕子 先生

（津田塾大学 教授）

②内容：文法指導をデザインする

講 師：田中 武夫 先生

（山梨大学教育学部人間科学部

（英語教育講座 准教授）

◇9月21日 台風のため中止

研究授業：Lesson 4

「At a Nature Park（命令文）」

（授業者：渡邊 功 教諭）

講 師：中村 馨 先生

（帝京大学教職大学院教職研究科

講師）

◇10月26日 研修のまとめ

9月の資料を用いて研修

来年度への提言等

（第二中学校教諭 白杵良子 記）

日 野 市

I. 研究主題

「確かな学力と豊かな心の育成を目指して」
～授業研究の充実～

副題

「小中連携を意識し、ICTを活用
した授業」

II. 研究の概要

- 5月11日 中教研総会
5月31日 公開授業①（ひのっこ教育21）
青柳 玲子 教諭（三中）
7月29日 日野市立教育センター
教育課程別研修会
外国語活動研修
（教育センター）
9月20日 授業研究②
大川 京子 教諭（平山中）
1月25日 授業研究③
磯 美智代 教諭（一中）
2月15日 中教研発表会
（大坂上中学校教諭 斎藤朝子 記）

国 分 寺 市

I. 研究主題

「豊かな表現力を育成するための指導と
工夫―身近な題材を用いた表現活動―」

II. 研究の経過

- ◇4月13日 市教研一斉部会
・組織づくり
・研究主題と年間活動計画決定
◇6月8日 研究授業
国分寺市立第四中学校 第三学年
授業者：大越 範子 先生
授業内容：受動態の導入
◇10月5日 講演会
講 師：根岸 雅史 先生
（東京外国語大学）
内 容：新学習指導要領の実施と
新教科書の使用について
◇11月9日 講演会
講 師：モーテン ヴァテン氏
（東京芸術大学大学院 博士課程）
内 容：ノルウェーの自然・文化・
教育制度について
◇1月18日 研究授業
国分寺市立第三中学校 第一学年
授業者：谷口 幸夫 先生
（都立国分寺高校）
松本 涼一 先生
（福島県双葉町立双葉中学校）
（第三中学校教諭 関谷礼子 記）

国 立 市

I. 研究主題

「小中学校の英語授業の交流
～入門期における活動・教材の工夫～」

II. 研究の経過

◇4月20日

講演、組織作り、研修計画作成

◇5月11日

研究主題の決定

◇6月8日

小学校・中学校教諭による模擬授業
情報交換

◇7月21日

小学校・中学校教諭による模擬授業
学習指導要領の検討

研究授業指導案の検討・協議

講 師：立川市適応指導教室
元立川市立小学校長
宇津木 悦子 先生

◇9月14日

研究授業指導案の検討・協議

◇11月9日

公開授業研究

授業者：第五小学校

南條 典子主任教諭

第三中学校

定森 夏子主任教諭

対 象：小学校第5学年

講 師：立川市適応指導教室
元立川市立小学校長
宇津木 悦子 先生

◇1月25日

研修のまとめ

(第二中学校主任教諭 植木 淳 記)

福 生 市

I. 研究主題

「確かな学力の育成～小中のつながりを
視点として～」

II. 研究の経過

◇4月20日 年間計画の作成

研究主題設定

◇6月8日 教材共有/教科書選定

◇7月29日 授業研究会

テーマ 「授業マネージメント」

講 師：川村光一教頭

(埼玉県幸手東中学校)

内 容：川村先生によるワークショップ

◇8月31日 市教研(研究授業)

テーマ 文法導入法・音読指導

授業者：寺沢陽子教諭 (福生二中)

講 師：窪田 香指導主事

(国立市教育委員会)

内 容：There is~の構文導入音読指導

◇12月26日 授業研究会

テーマ：「教科書指導方法」

講 師：川村光一教頭

(埼玉県幸手東中学校)

内 容：川村先生によるワークショップ

◇1月25日 小学校研究授業

(小学校外国語部会)

研究授業協議会

◇2月15日 福生市(市教研・研究報告会)

(第二中主任教諭 須田和也 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「リーディング力を高める指導」

II. 研究の経過

◇4月13日

英語部組織づくり、研究主題決め

◇5月9日 「市内教研総会」

◇7月11日 部長会

◇10月17日 授業研究

授業者：横山牧子教諭・大宅完志教諭・
千ヶ久夫 教諭（一中）

授業内容：New Crown1 Lesson5
My friends in Okinawa

講 師：太田美智彦 氏

◇11月21日 部長会

◇1月16日 部長会

◇2月27日 「市中教研発表会」

リーディング力向上には書かせることも必要であり、つながりのある文を意識して書くよう指導すること、また、相手との関わりを重視して読んだり書いたりすることが大切であることなどの助言をいただいた。

（第二中学校教諭 橘和美 記）

東 大 和 市

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を目指した指導のあり方」
～4技能をバランスよく身につけ、コミュニケーション能力の育成を図る指導～

II. 研究の経過および内容

◇5月11日（水）一斉部会

会 場 東大和二中

自己紹介、代表者選出、研究主題の検討、活動方針、活動計画の作成

◇11月9日（水）

[第一部] 授業研究授業

授業者 阿部公一 教諭

単 元 Total English Book 1
Lesson6 Halloween

[第二部] 研究協議会

- ・授業者からの授業に関する解説
- ・各校の教員からの感想、およびアドバイス

[第三部] 研修会

- ・新教育課程への対応
- ・採択教科書の活用、指導の重点

講 師 山下喜世子 先生

（八王子市立第五中学校）

III. 研究の成果

- ・研究提案授業から、基礎・基本を定着させるための取り組みの一つとして、工夫を凝らした暗唱や書き取りの指導法について意見交換をし、理解を深めることができた。
- ・4技能のバランスをいかにして、計画的に授業に盛り込んでいくか、実践例を叩き台に、意見交換をし、色々な考え方やその方法について考える機会を設けることができた。

（第五中学校主幹教諭 宮本永司 記）

清 瀬 市

I. 研究主題

「小中学校の英語教育の連携のあり方を考える」

◇主題設定

小学校英語指導の全面的な本格化で中学校教員が、小学校外国語授業の参観をすることにより、ALTや教材の運用法など指導や連携のあり方などを把握したい。

II. 研究の経過

◇研究の方法

市内小学校の英語活動等の授業を参観

- ◇清瀬市立第四小学校にて（12月9日実施）
6年2組25名（男子12名、女子13名）
授業者 北澤 人 教諭、ジョセリン（ALT）

単元名 「こんな国に行ってみたい」

ALTと担任による授業で、授業の参観とその後の協議会を実施。

◇研究成果

小学校の先生方の直面する問題

- (1) ALTとの打ち合わせの時間が十分とれない。
- (2) 毎回の授業の教材を準備するのがたいへんである。
- (3) 週一回の授業なので、前にやったことが定着できていない。

◇まとめ

今後も、小中学校の相互の英語の授業を参観し、指導技術を高めていきたい。

そして、常に英語授業の情報交換をしていきたい。

（第三中学校教諭 渡部昭博 記）

東 久 留 米 市

I. 研究主題

「生徒が意欲的に取り組める英語の指導法の工夫」

II. 活動の経過

- ◇5月18日 市授業改善研究
研究主題・情報交換

- ◇7月6日 研究授業
下里中学校1年生
授業者：中山美加教諭
講 師：玉川大学元講師
松香洋子先生

- ◇11月9日 研究授業
南中学校2年生
授業者：近藤正浩教諭
講 師：玉川大学教授
高橋貞雄先生

※昨年度より引き続き、小中連携教育課程委員会で、話し合いが進められている。
小学校では「何を学習してきたのか」を再確認する必要がある。

※楽しんで学習することは大切だが、力の付く授業が必要である。

（中央中学校主幹教諭 吉川彩子 記）

多 摩 市

I. 研究主題

「小学校英語と新学習指導要領との
つながり」

II. 研究の経過

◇5月11日

市中教研一斉部会（鶴牧中学校）

内 容（1）英語部組織作り

（2）研究主題と年間計画決定

◇5月27日

研究授業（落合中学校）

授業者：石川晴菜 教諭

エドワード・ワインズロー先生

◇11月16日

研修会（東愛宕中学校）

講 師：中谷 愛 指導主事

内 容：「新学習指導要領と小中連携に
ついて」

◇2月8日

多摩市研究発表会

会 場：鶴牧中学校

多摩永山中学校

（和田中学校教諭 横山達也 記）

稲 城 市

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図
る児童・生徒の育成」

II. 研究の経過

◇4月20日

組織編成、研究主題、年間活動計画

◇5月11日

授業進捗の情報交換、意見交換

◇6月15日 ワークショップ

講 師：楠志織

（アイエック）

◇8月25日 研究授業指導案検討

◇9月14日 中学校研究授業

授業者：甘利朋子 教諭

（稲城第六中学校）

講 師：和田文宏 先生

（狛江第三中学校）

◇10月12日 中学校研究授業

授業者：西脇輝和 教諭

（稲城第五中学校）

講 師：和田文宏 先生

（狛江第三中学校）

◇11月9日 小学校研究授業

授業者：井上謙子 教諭

（稲城第一小学校）

講 師：中谷 愛 指導主事

（多摩市教育委員会）

◇1月11日

研究のまとめと次年度への課題

◇2月8日

教育研究発表会

（第四中学校教諭 川邊耕太 記）

あ き る 野 市

I. 研究主題

「基礎基本を定着させるための反復練習の工夫」

II. 研究の経過

◇6月15日 市中教研研究授業

授業者：中野朋子 教諭（西中学校）

授業内容：NEW CROWN 2

lesson 3（未来形will）

講 師：神奈川大学外国語学部

英語英文科准教授

久保野雅史 先生

◇8月22日 市教研授業力向上研修

内 容：研究主題達成のための具体的な取組み等について、有意義な情報交換を行った。

◇10月19日 市中教研研究授業

授業者：上水謙治教諭

（五日市中学校）

授業内容：NEW CROWN 1

lesson 5（He is , She is）

講 師：千代田区立

九段中等教育学校主任教諭

本多敏幸 先生

◇1月25日 市中教研研究授業

授業者：板垣吉郎教諭（御堂中学校）

授業内容：NEW CROWN 2

DO IT TALK 6（Will you?）

講 師：江東区立深川第一中学校

主任教諭 原田博子 先生

（東中学校教諭 瀬沼祐子 記）

西 東 京 市

I. 研究主題

「新学習指導要領実施へ向けて
～コミュニケーション活動の充実～」

II. 研究の経過

◇5月11日 西東京市中学校教育研究会 定期総会、一斉部会

①本年度役員の確認

②昨年度活動報告 今年度活動計画立案

◇7月25日 夏季研修会

- ・テーマ：「飛び出そう 世界へ つながろう人々と」
サブテーマ「教室はコミュニケーション
プラクティスの場。仲間と
つながり合いながら、本物の
力をつける。」

・講 師：東村山市立

東村山第二中学校教諭

安部直子先生

- ・内 容：安部先生の教育観に基づいた授業展開のワークショップや授業風景のDVD鑑賞を行いました。小学校英語活動の経験を中学校の英語の授業でどう生かすか。クラスメートとの関わり（学びあい）の中で、いかに子供たちに声を出させコミュニケーション活動を行うか。など、今後の授業づくりに大変参考になる研修ができました。

◇11月9日

授業研究および24年度新教科書の解説
研究授業

・授業者：栗原恵子教諭

（西東京市立田無第一中学校）

・授業内容 Lesson6 I Have a Dream
新教科書の解説

・講 師：東京外国語大学専任講師

工藤洋路先生

- ・内 容：研究授業のご指導をいただいた後、24年度から採択が決定した新教科書の編集コンセプトなどについて執筆に関わった工藤先生から解説をしていただきました。

（保谷中学校 主任教諭 久山洋介 記）

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「生徒が生き生きと活動できる充実した授業の工夫」

II. 研究の経過

◇5月11日（水）

西多摩中教研一斉部会

会 場：日の出町立平井中学校

内 容：役員選出と承認

研究主題と年間計画の確認

◇6月15日（水）

研究授業

会 場：奥多摩町立氷川中学校

授業者：佐藤 修主任教諭（氷川中）

対 象：3学年

内 容：「リトルチャロ」を効果的に活用し、英語学習全般に対する意欲を高める授業

講 師：西川 聡先生

（八王子市立館中学校）

◇8月19日（金）

夏季研修会

会 場：檜原村立檜原中学校

内 容：各校での実践事例紹介
課題解決への意見交換
情報交換

◇2月1日（水）

西多摩中教研全体研修会

会 場：ゆとろぎ（羽村市）

授業者 矢澤昭治先生

（立川市立立川第三中学校）

内 容 New Crown English Series 2
動名詞の導入と活用

（檜原中学校主任教諭 江藤誠 記）

大 島

I. 研究主題

『新教科書の検討と評価基準作り』

II. 活動の経過

◇4月20日 町中学英語研究会

①平成22年度活動報告

②平成23年度組織作り

役員選出・研究主題の設定・年間活動計画の検討

◇6月15日 教育研究会英語部会

場所：大島町立第一中学校

①新教科書の検討

②新学習指導要領変更点の確認

③情報交換

◇10月19日 教育研究会英語部会

場所：大島町立第一中学校

①年間指導計画及び評価基準の検討

②情報交換

◇11月24日 教育研究会英語部会

場所：大島町立第二中学校

①研究授業

対象：第3学年

授業者：梅田 篤先生

②研究協議

③年間指導計画及び評価基準の検討

④情報交換

◇2月2日 教育研究会英語部会

場所：第一中学校

①本年度の反省と来年度の課題

②新教科書の活用と副教材の検討

③情報交換

（第三中学校教諭 吉本洋人 記）

八 丈 島

I. 研究主題

「基礎的な文法力の定着」

II. 活動の経過

◇4月20日 第1回部会

組織作り、研究主題、活動計画

教科書選定について

◇5月26日 授業研究

授業者：山入端信之

◇7月 第2回部会

共通テスト実施・分析

◇10月6日 授業研究

授業者：丹生幸宣

◇12月7日 第3回部会

国際理解教室について

◇12月8日、9日国際理解教室実施

講師にミャンマー出身のSaw Yu Mon先生
を迎え、異文化理解の機会、国際交流の
場とし、事前・事後学習も実施（12/8
三原中学校、大賀郷中学校、12/9 富士
中学校）

◇1月22日 第4回部会（情報交換）

◇1月25日 授業研究

授業者：松岡永

◇第5回部会(2月)

予算執行報告・今年度のまとめ

次年度に向けて

（三原中学校主幹 山入端信之 記）

平成23年度
中英研事業報告

1. 4月25日（月）役員会
於：駒込中学校
①役員組織等の確認
②年間事業計画の検討
③中英研定期総会に向けて
④役員会の日程
⑤関プロ山梨大会
⑥全英連関係等
2. 5月13日（金）定期総会・懇親会
於：駒込中学校
①22年度事業報告
②22年度決算報告
③22年度会計監査報告
④新役員の承認
⑤23年度基本方針の承認
⑥23年度事業計画・予算の承認
⑦講演
「英語教育に課せられた人間教育」
講師：森住 衛（桜美林大学教授）
◎懇親会
3. 6月24日（金）
関東甲信地区中学校英語教育研究協議会
第1回理事研修会
於：富士吉田市
関プロ山梨大会について
4. 6月28日（火）役員会
於：駒込中学校
①関プロ山梨大会について
②関プロ理事研修会について
③地区部長、幹事名簿について
④十五大都市札幌大会について
⑤中英研だよりについて
⑥サマーワークショップ関係
⑦コミュニケーションズについて
⑧都中英研部長・幹事会について
5. 7月15日（金）
「都中英研だより」第61号発行
6. 7月26日（火）役員会
於：駒込中学校
①関プロ山梨大会進捗状況
②全英連奈良大会について
③サマーワークショップ関係
④都中英研地区部長・幹事会について
7. 7月～8月
中英研学力調査問題の作成
8. 7月27日（水）
第1回研究部夏期語い指導ワークショップ
於：江戸川区立西葛西中学校
講師：大貫 由希
町田市立山崎中学校教諭
上尾栄美子
江戸川区立篠崎第二中学校
8月1日（月）
第2回研究部夏期語い指導ワークショップ
於：港区立赤坂中学校
講師：金子健次郎
太田区立大森第七中学校
横山 牧子
狛江市立狛江第一中学校
8月17日（水）
第3回研究部夏期語い指導ワークショップ
於：大田区立区立貝塚中学校
講師：江濱 悦子
大田区立貝塚中学校
関口 智
江戸川区立清新第一中学校
9. 8月18日（木）
サマーワークショップ2011
於：千代田区立九段中等教育学校
ワークショップ
講師1：根本 誉
北区立王子桜中学校
講師2：芳賀 逸子
杉並区立和田中学校
全体会講師：本田 敏幸先生
（千代田区立九段中等教育学校）
一若手教員のための授業作りの基本とは一
10. 8月26日（金）役員会
於：渋谷区立鉢山中学校

- ①関ブロ山梨大会について
②全英連奈良大会について
③コミュニケーション課題の検討
「区市町村英語教育研究部部長会・
幹事会」
④各地区の活動状況について
〈講演会〉
「これからの中学校英語教育のあり方」
専修大学教授 田邊 祐司先生
11. 9月28日(水) 役員会
於：鉢山中学校
- ①関ブロ山梨大会について
②全英連奈良大会について
12. 10月7日(金) 役員会
於：鉢山中学校
- ①ブロ山梨大会関係
②全英連奈良大会関係
13. 10月6日(木)～7日(金)
第51回15大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会
於：札幌市
14. 10月21日(金) 役員会
於：鉢山中学校
- ①関ブロ山梨大会について
②全英連奈良大会について
③各種研修会報告
④英語学芸大会について
15. 11月11日(金) 12日(土)
第61回全国英語研究大会奈良大会
於：第1日目
なら100年会館大ホール
第2日目
帝塚山大学学園前キャンパス
16. 11月10日(木)
関東甲信地区中学校英語教育研究協議会
第2回理事研修会
於：ハイランドリゾート
①関ブロ山梨大会について
17. 11月11日(金)
第35回関ブロ山梨大会
於：ハイランドリゾート他
- 主題 「国際社会の中で生きる力を育む
英語教育をめざして一」
18. 11月28日(月) 役員会
於：鉢山中学校
1. 各部報告と連絡
2. 英語学芸大会について
19. 12月5日(月)
第64回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
20. 12月9日(金)
「都中英研だより」第62号発行
21. 1月26日(木) 役員会
於：鉢山中学校
- ①研究部発表会の準備
②平成22年度役員人事案
22. 2月21日(火) 役員会
於：鉢山中学校
- ①研究部発表会について
②平成23年度役員人事について
③次年度活動計画について
23. 2月23日(火)
中英研研究部研究授業
於：江戸川区立篠崎第二中学校
- ①研究授業 上尾栄美子教諭
②研究協議「語いと英語(35)」
③講師：日臺 滋之先生(玉川大学)
24. 3月2日(金)「中英研会報」
第70号発行
25. 3月末 役員会予定
於：鉢山中学校
- ①23年度各部事業・決算報告
②次年度新役員構成の確認
③次年度総会について
④情報交換
(総務部長：飯島 光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
- 第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
- 第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
- 第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研究会の開催（研修会、発表会、講演会等）
 2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
 3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
 4. 各種英語教育団体との連絡
 5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
 2. 副会長若干名
 3. 部長各部ごと1名
 4. 副部長各部ごと若干名
 5. 会計監査2～3名
 6. 幹事各区、市ごとに1名
- 第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
 2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
 3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
- 第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
 3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を召集し、会務を執行する。
 4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
 5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
 6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第9条 役員の仕事は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 本会に相談役、参加及び顧問をおくことができる。

1. 相談役はOB会長及び副会長より、参加は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

第11条 会議は次のとおりとする。

1. 総 会

毎年1回会長が召集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2. 役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3. 幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4. 部 会

[総務部] 庶務・会計・渉外および他部に属さない事項の処理

[事業部] 会の年間計画・英語学会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

[研究部] 語い指導研究・辞書指導研究及び公開授業・研究発表会の開催

[出版部] 中英研だより・会報などの発行

[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

第12条 本会の会費は東京都中学校研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条 細則は幹事会で定めることができる。

第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成23年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	井 田 宗 宏	練馬区立豊玉中学校
副 会 長	飯 島 光 正	豊島区立千登世橋中学校
"	牛 島 順 子	目黒区立第四中学校
"	重 松 靖	国分寺市立第三中学校
"	阿 字 宏 康	荒川区立第一中学校
"	石 鍋 浩	足立区立新田学園
"	醍 醐 路 子	豊島区立駒込中学校
"	松 岡 敬 明	渋谷区立鉢山中学校
"	惣 田 修 一	足立区立湊江中学校
総務部長	飯 島 光 正	豊島区立千登世橋中学校
経理部長	佐 藤 恭 子	世田谷区立尾山台中学校
副 部 長	鳥 海 重 年	中野区立中央中学校
"	福 井 正 仁	港区立港陽小学校
"	石 川 真知子	江東区立亀戸中学校
部 員	田 中 誠一郎	府中市立第八中学校
"	福 島 恵 子	杉並区立井荻中学校
"	近 藤 浩	世田谷区立玉川中学校
"	堀之内 國 義	足立区立第十三中学校
"	菅 野 宏 治	豊島区立池袋中学校
"	新 野 美 紀	練馬区立石神井東中学校
"	瀧 口 均	都立桜修道館中等教育学校
"	長 尾 諭	大田区立石川台中学校
"	佐々木 昭 央	目黒区立目黒第九中学校
調査部長	重 松 靖	国分寺市立第三中学校
副 部 長	刀 根 武 史	小金井市立東中学校
"	本 多 敏 幸	千代田区立九段中等教育学校
"	岩 崎 紀美子	品川区立大崎中学校
部 員	阿久津 仁史	文京区立茗台中学校
"	伊地知 可 奈	品川区立荏原第一中学校
"	今 井 一 憲	中野区立第九中学校

役名	氏名	所属校
部員	大澤陽子	大田区立大森第七中学校
〃	大森博	練馬区立中村中学校
〃	小川登子	葛飾区立葛美中学校
〃	小椋由紀子	荒川区立第七中学校
〃	門倉聖恵	八王子市立みなみ野中学校
〃	川口三保子	府中市立府中第六中学校
〃	岸川裕子	府中市立府中第一中学校
〃	木村弘恵	世田谷区立上祖師谷中学校
〃	斉藤基	日野市立三沢中学校
〃	佐藤恵美	墨田区立立花中学校
〃	柴野泰行	足立区立湊江中学校
〃	白井恵	羽村市立羽村第二中学校
〃	白井靖子	江東区立第二大島中学校
〃	白川智恵子	練馬区立大泉北中学校
〃	鈴木悟	小笠原村立小笠原中学校
〃	須藤礼子	新宿区立西早稲田中学校
〃	瀬谷光子	世田谷区立芦花中学校
〃	高瀬ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
〃	永井剛	あきる野市立五日市中学校
〃	幡野洋子	日野市立第四中学校
〃	三木謙二郎	大田区立馬込中学校
〃	宮崎大樹	あきる野市立秋多中学校
〃	山下郁子	世田谷区立松沢中学校
〃	料所奈緒子	江戸川区立松江第五中学校
〃	石原公仁余	江東区立深川第五中学校
〃	近藤満利生	北区立赤羽岩淵中学校
〃	田平真季	大田区立大森第八中学校
〃	橋本浩	八王子市立陵南中学校
〃	野口哉寿子	小金井市立東中学校
〃	野田まり子	瑞穂町立瑞穂第二中学校
事業部長	横山達也	多摩市立和田中学校

役名	氏名	所属校
担当副会長	牛島 順子	目黒区立 第四中学校
副部長	田口 徹	千代田区立 九段中等教育学校
〃	田島 久士	大田区立 糀谷中学校
〃	相沢 隆二	文京区立 第十中学校
部員	米澤 登志子	目黒区立 第十一中学校
〃	多田 渉	世田谷区立 千歳中学校
〃	吉澤 ひとみ	足立区立 千寿桜堤中学校
〃	明石 達彦	千代田区立 九段中等教育学校
〃	大屋 剛	世田谷区立 烏山中学校
〃	雲出 和子	にしみたか学園
〃	斉藤 節子	豊島区立 明豊中学校
〃	竹中 敬子	都立城南特別支援学校
〃	漆畑 拓也	町田市立 金井中学校
〃	前川 卓哉	府中市立 府中第二中学校
研究部長	北原 延晃	港区立 赤坂中学校
担当副会長	松岡 敬明	渋谷区立 鉢山中学校
副部長	石井 亨	千代田区立 九段中等教育学校
〃	関口 智	江戸川区立 清新第一中学校
〃	原田 博子	江東区立 深川第一中学校
部員	横山 牧子	狛江市立 狛江第一中学校
〃	福井 洋子	町田市立 鶴川第二中学校
〃	溪内 明	千代田区立 九段中等教育学校
〃	大貫 由季	町田市立 山崎中学校
〃	岡崎 伸一	品川区立 日野学園
〃	金子 健次郎	大田区立 大森第七中学校
〃	上尾 栄美子	江戸川立 篠崎第二中学校
〃	江濱 悦子	大田区立 貝塚中学校
〃	中川 智子	大田区立 大森第十中学校
〃	太田 恵理子	江戸川区立 西葛西中学校
〃	坂田 恵子	板橋区立 上板橋第二中学校
〃	前田 宏美	葛飾区立 桜道中学校

役名	氏名	所属校
出版部長	石鍋 浩	足立区新田学園
副部長	渡辺 雅子	足立区立第十四中学校
〃	小柳 守生	江戸川区立西葛西中学校
〃	今本 由美子	練馬区立大泉中学校
部員	下路 博朗	足立区立第四中学校
〃	三岡 一隆	練馬区立石神井西中学校
〃	中井 正弘	中野区立第四中学校
〃	赤塚 貴音	台東区立桜橋中学校
〃	鈴木 咲子	東村山市立第七中学校
〃	岡部 芳枝	文京区立文林中学校
〃	塩田 裕明	練馬区立大泉中学校
〃	當麻 忠幸	西東京市立明保中学校
〃	中西 智子	文京区立第六中学校
P T部長	斉藤 節子	豊島区立明豊中学校
担当副会長	醍醐 路子	豊島区立駒込中学校
副部長	佐藤 順一	墨田区立文花中学校
部員	原田 博子	江東区立深川第一中学校
〃	上尾 恵美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	岸川 裕子	府中市立府中第一中学校
〃	大内 由香里	江戸川区立葛西第三中学校
〃	小柳 隆	武蔵野市立武蔵野第二中学校
〃	飯塚 貴子	墨田区立立花中学校
〃	井田 文子	多摩市立諏訪中学校
〃	角田 幸彦	目黒区立目黒第四中学校
〃	森山 美由紀	三鷹市立第二中学校
〃	渡邊 英哲	豊島区立明豊中学校
〃	堀 恭子	豊島区立千川中学校
〃	中谷 愛	多摩市教育委員会
〃	高山 芳樹	東京学芸大学
会計監査	大野 容義	青梅市立第一中学校
〃	稲葉 秀哉	板橋区立赤塚第二中学校

平成23年度 顧問

氏 名	役 職
高野 敬三	教育庁理事（教職員研修センター所長兼務）
宇田 剛	教育庁指導部主任指導主事
川越 豊彦	教育庁総務部教育政策担当課長
小澤 哲郎	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
永森 比人美	教育庁指導部指導企画課統括指導主事
瀧 沢 佳宏	教育庁高等学校教育指導課統括指導主事
大 泉 昌明	西部学校経営支援センター支所統括学校経営支援主事
五十嵐 浩子	練馬区教育委員会統括指導主事
松 永 透	三鷹市教育委員会統括指導主事
阿部 大介	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
堀 江 敏彦	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
瀬 田 栄治	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
板 垣 繁	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
堀 内 明	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
松鶴 賢二朗	教育庁人事部試験室指導主事
深尾 絵美子	東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事
小山 多香子	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事
市村 裕子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
佐藤 勝也	文京区教育委員会指導主事
東條 貴史	江東区教育委員会指導主事
津村 慶	世田谷区教育委員会指導主事
丸山 順子	足立区教育委員会指導主事
加藤 雄一	中野区教育委員会指導主事
橋本 浩	八王子市教育委員会指導主事
窪田 香	国立市教育委員会指導主事
重山 直毅	清瀬市教育委員会指導主事
中谷 愛	多摩市教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
新 庄 惠 子	港 区 立 高 陵 中 学 校	校 長
和 田 雅 光	文 京 区 立 本 郷 台 中 学 校	”
田 谷 至 克	墨 田 区 立 寺 島 中 学 校	”
原 田 承 彦	大 田 区 立 大 森 第 七 中 学 校	”
岩 崎 正 道	世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	”
中 村 貴 美 子	世 田 谷 区 立 梅 丘 中 学 校	”
野 瀬 博	世 田 谷 区 立 弦 卷 中 学 校	”
菅 野 武 彦	杉 並 区 立 松 溪 中 学 校	”
永 嶋 昌 博	北 区 立 桐ヶ丘 中 学 校	”
齊 藤 進	荒 川 区 立 南 千 住 第 二 中 学 校	”
大 山 明	練 馬 区 立 石 神 井 中 学 校	”
西 正 弘	練 馬 区 立 豊 溪 中 学 校	”
当 間 一 則	練 馬 区 立 石 神 井 南 中 学 校	”
長 谷 川 幸 次	練 馬 区 立 南 が 丘 中 学 校	”
中 野 利 彦	葛 飾 区 立 本 田 中 学 校	”
荒 川 善 則	足 立 区 立 上 沼 田 中 学 校	”
増 渕 裕 康	足 立 区 立 東 島 根 中 学 校	”
原 浩 三	足 立 区 立 第 五 中 学 校	”
鈴 木 崇 夫	足 立 区 立 江 南 中 学 校	”
小 谷 野 良 行	八 王 子 市 立 甲 ノ 原 中 学 校	”
岡 崎 美 昭	青 梅 市 立 新 町 中 学 校	”
山 崎 好 美	府 中 市 立 府 中 第 七 中 学 校	”
中 島 理 智	昭 島 市 立 拝 島 中 学 校	”
石 村 康 代	日 野 市 立 第 三 中 学 校	”
山 口 順 一	多 摩 市 立 聖ヶ丘 中 学 校	”

あ と が き

今年度も、文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の平木裕先生をはじめ、ご執筆してくださった皆様のおかげをもちまして「都中英研会報 第70号」を発行することができました。厚くお礼を申し上げます。

本会報では、今回も東京都全地区の部長ならびに幹事の先生方によるご協力で、各地区活動報告を掲載することができました。各地区活動報告には、スペースに限りがあり、活動状況を十分に書いていただいているとは言えないと思います。それでも、それぞれの地区で、よりよい英語の授業を目指したり、新しい学習指導要領の実施に向けて取り組んだり、小学校の外国語活動について勉強したりと充実した活動をしている様子が伝わってきます。各地区での活動報告から、今後もよい研修がよい英語教育を支える一助となると確信いたしました。

最近の中学校を取り巻く環境の変化や英語教育に課せられた期待の大きさを考えますと、私たち英語教師がやらなければならないことは本当に多いと感じます。しかし、時代は変わっても私たちがよい英語の授業をしようとするとき、基本となることはあまり変わらないと思います。

第一に、授業をする前に生徒との人間関係をよい状態に保っているかということでしょう。毎日の学校生活の中で、生徒に声をかけ日常的なコミュニケーションを図り、全員とはいきませんが生徒との信頼関係を築いておくことは、よい授業をする大前提となると思います。日々の活動の中で、生徒との人間関係ができていないのに、英語の授業だけ「英語を使ってみよう」といっても、生徒の反応はしらけたものになるのではないのでしょうか。さまざまな状況で信頼関係を築くのがとても困難なこともあると思いますが、私たちがいつも心がけておきたいことだと思います。そして、その延長線上に英語を使ったコミュニケーション活動が見えてきます。よりよい英語のコミュニケーション活動を目指して、私たちが、what to teach とhow to teach の部分でも努力や工夫をしていく必要があるのは、本誌を見ていただければ明らかであると思います。

先生方が、情熱をもって英語教育に努力されることを願っております。本誌が少しでも、英語教育に携わる方々の研修や課題解決の一助になれば幸いです。最後になりましたが、本誌の発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方、原稿のとりまとめや編集作業をともにしてくださったオフィスサンライズの皆様に感謝いたしますとともに、会員の方々の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 石鍋 浩)

都中英研会報 第70号

平成24年2月28日印刷
平成24年3月2日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 井田 宗宏

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都練馬区豊玉中学校
東京都練馬区豊玉南2-1-20
TEL (03) 3994-1451

印刷所 (株)オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-12-10
TEL (03) 5741-3146